



江戸名所図會
十六

ル 4
3605
16



永昌寺

東叡山山下の名

養玉院

全秋安樂寺

不動堂法印の松

本戸孝範第宅回廊

後弓の塚

熊野権現社

餘木不動如來

白籬塚

石渡

牛頭天王洞

天満宮

廣徳寺

六条天神社

若菜寺圓魔堂

根原圓光寺

正燈寺

小塚東天王社

子任大塚

富士法回宮

西新井法大師堂

梅田明王院

石渡城跡

志保稻荷社

下谷稻荷社

常樂院

入谷庚申堂

養論西光寺

万里小法寓居之地

飛鳥の神社

光榮池

法回の洞

大師加持水

天満宮

不動堂

思ひ川

下谷岡

上野坂本口園

小野照彦神社

時多屋

子束郷

山谷熱田神社

誓願寺

法回延命寺

十二天森

二月村八幡宮

誓願神社

新日神の宮

隅田川

總泉寺

鏡り池

東野先生墓

長昌寺

山谷堀今戸橋の笛

聖天宮

石渡古銭場

袈裟掛松

法源寺

今戸八幡宮

日本堤

正平合戦之圖

沙茅の系

采女塚

碓氷鷲の系

慶養寺

新吉原町

新尾不動堂

好飛塚

玉形稻荷洞

今戸陶器師

志去山



東國記行
 角田川もええけり
 本家の平らなる橋ありとい
 又東順禮観する浅草とい
 布とらん立よりて結縁
 せべーあといひ
 秋あゝ思本未れ花も
 あはらさの
 露うづれと
 角田川うれ
 宗牧

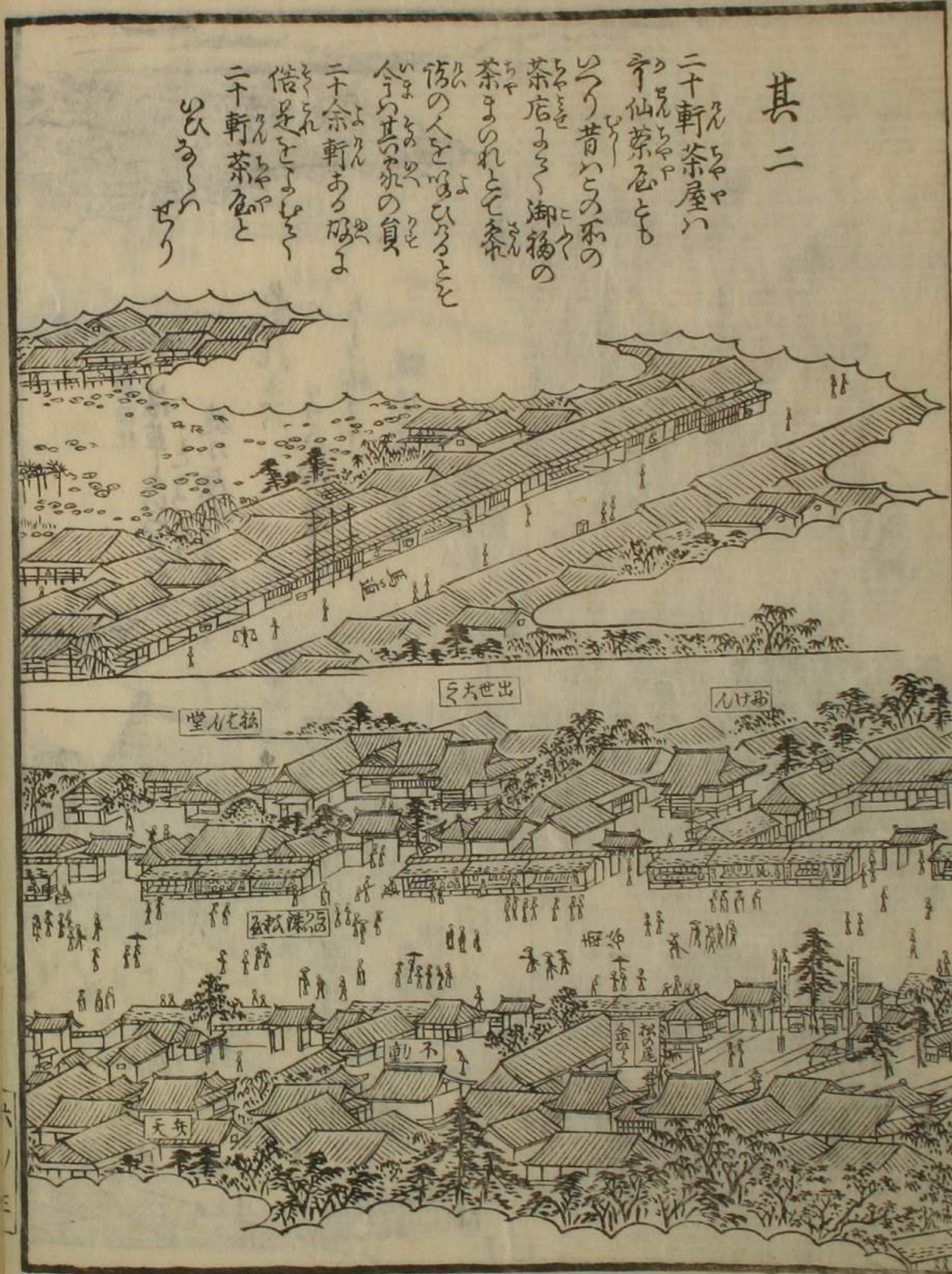
四國雜記
 浅草といつて不
 庭小狭なるまを
 庭うれ
 庭のあを
 庭うれ
 庭のあを
 庭うれ

天神
 葉秋
 風雷神
 大天神宮

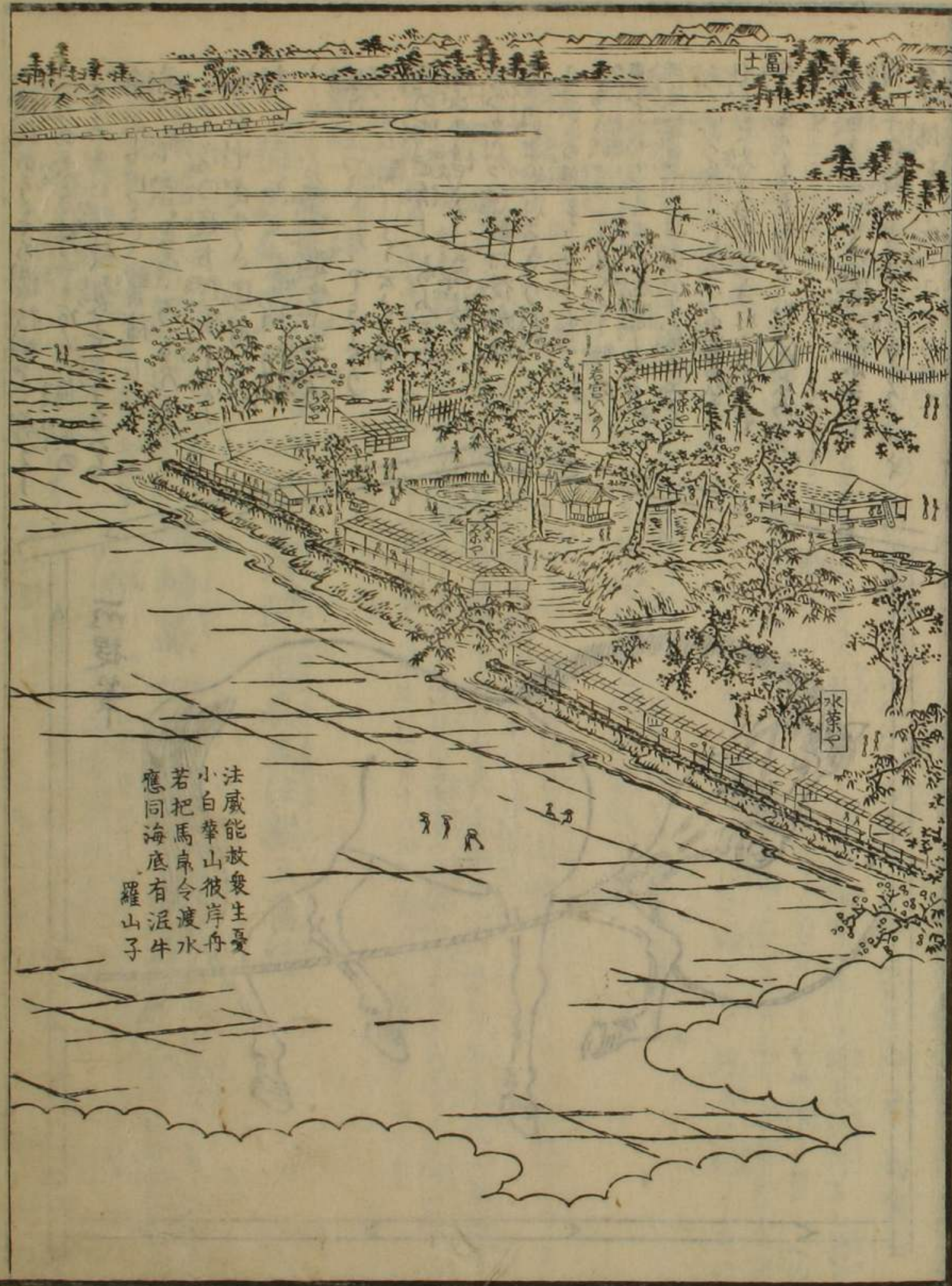


全圖
 共五枚
 金龍山
 浅草寺
 戸川丸
 川草

町木並





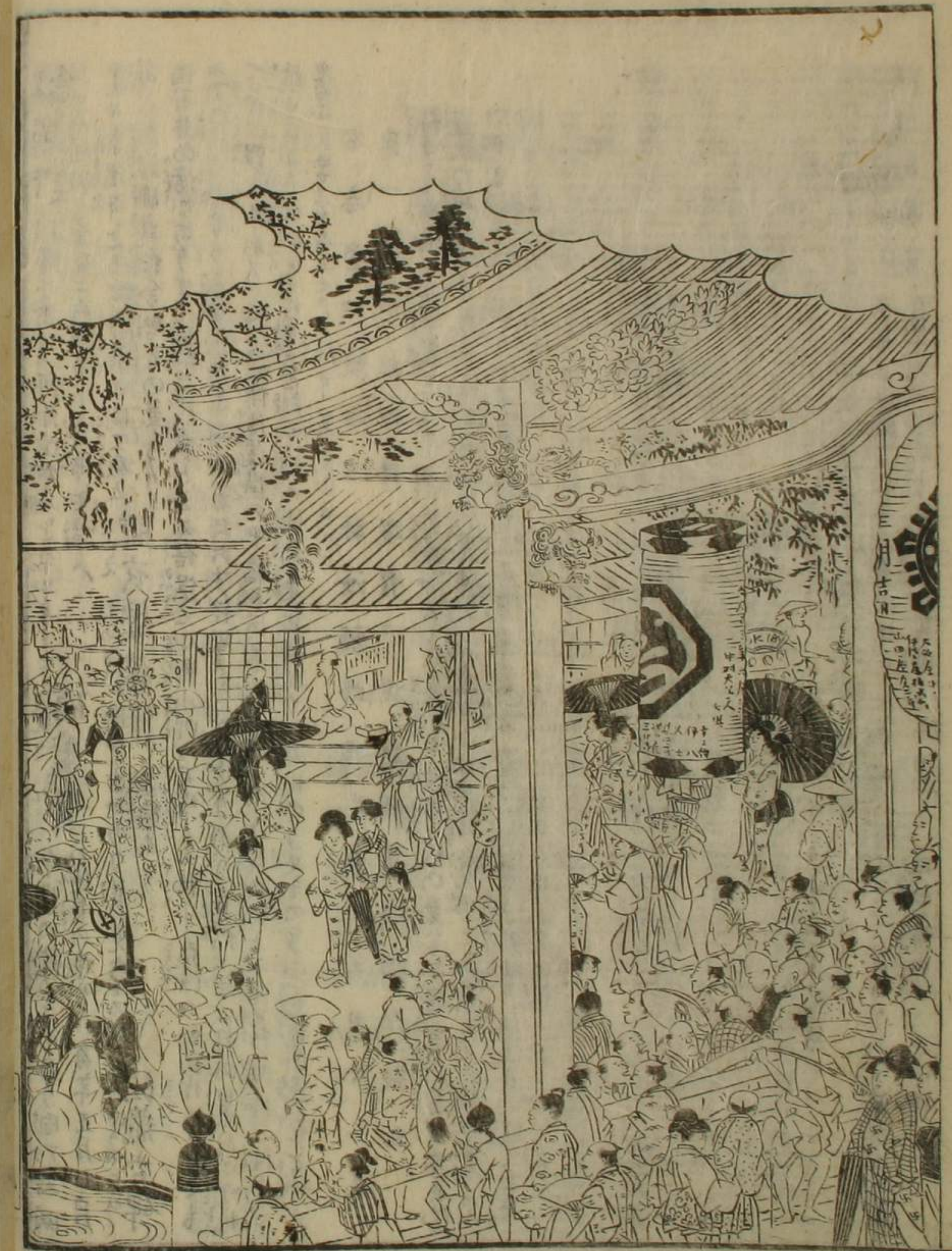
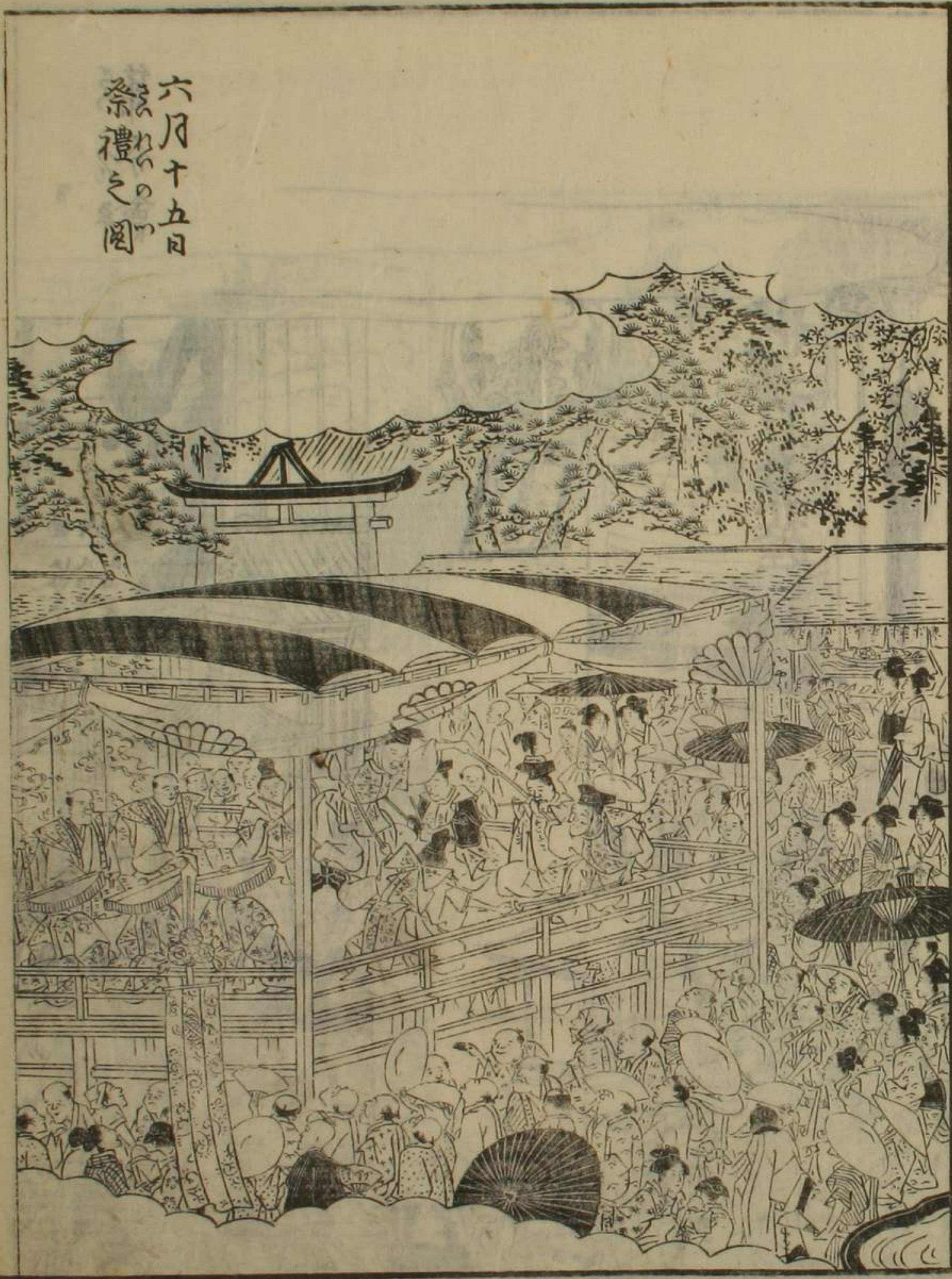


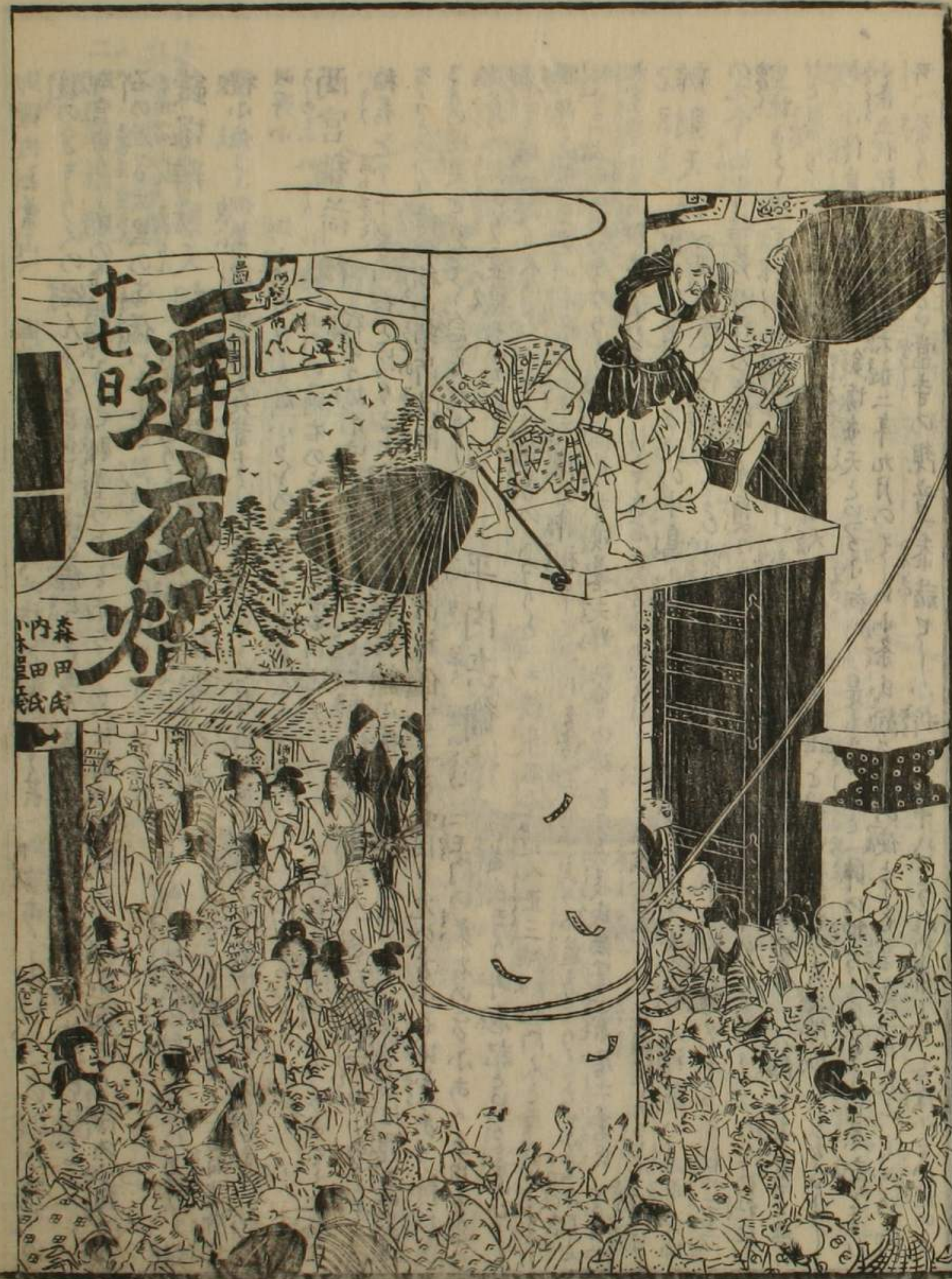
法威能救衆生憂
 小白華山彼岸舟
 若把馬岸令渡水
 應同海底有泥牛
 羅山子



其
 五

六月十五日
祭禮之圖





鑄師 武州深川 大田近江大塚藤原正次

石枕 いのまき 中東中谷州小あり庭中小山あり是と焼く此と穿すまゝと當寺の住持小石の枕あり傳説の文明年中道島依后田圃雜記小せざる文章をそ小記を願ふ倍付と異なり旧記をとりつゝ尤小筆と共付く未だの久しとあらしむ

田圃雜記云 此里れんとて小石枕といふゆゑかふる石あり其故を尋ぐると中頂の半小やありむむさすはかひひたり娘と一人持より容色おほりよりのつねちりりかの父母娘を遊女小あて道あると心と小むむひかの石れんとてにいさちひて交會のゆゑとをゆらとせりりり兼てよりあつの夏され折をまわひて彼父母枕のものとに多寄くともねそりる男のうへをうらたると衣装似下の物を取て一生を送りたりたるほと小彼娘はやりとひかやうあちりさやや幾程もちた世の中小ひるゆゑさの業として父母りるとも小悪趣小墮して永劫沈淪せむののれと先非小垂ての悔ても益れは是より後のゆゑとまゝ工夫して所詮我父母を生かぬ

楊枝店 やうしとを 境内楊枝を 常く店甚 多し柳屋と 稱するものを りて本原を 今と今其 衆号を唱ふる 力の多く竟に 比の名産といふ 是より僧徒律 小楊枝はかの 利あるを載し 云く

- 一は口苦り
- 二は臭く
- 三は風と除
- 四は熱と去
- 五は痰とのち



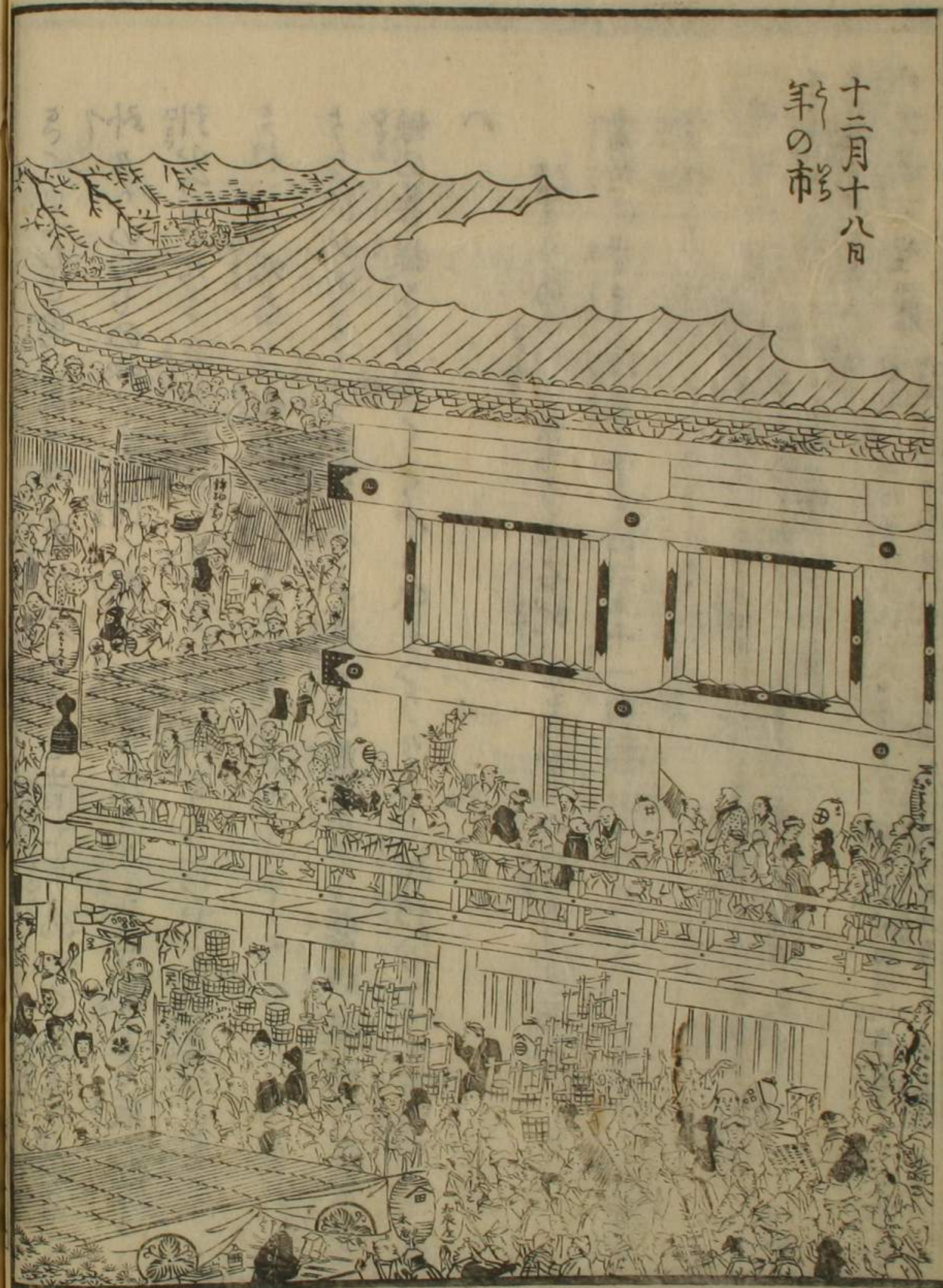
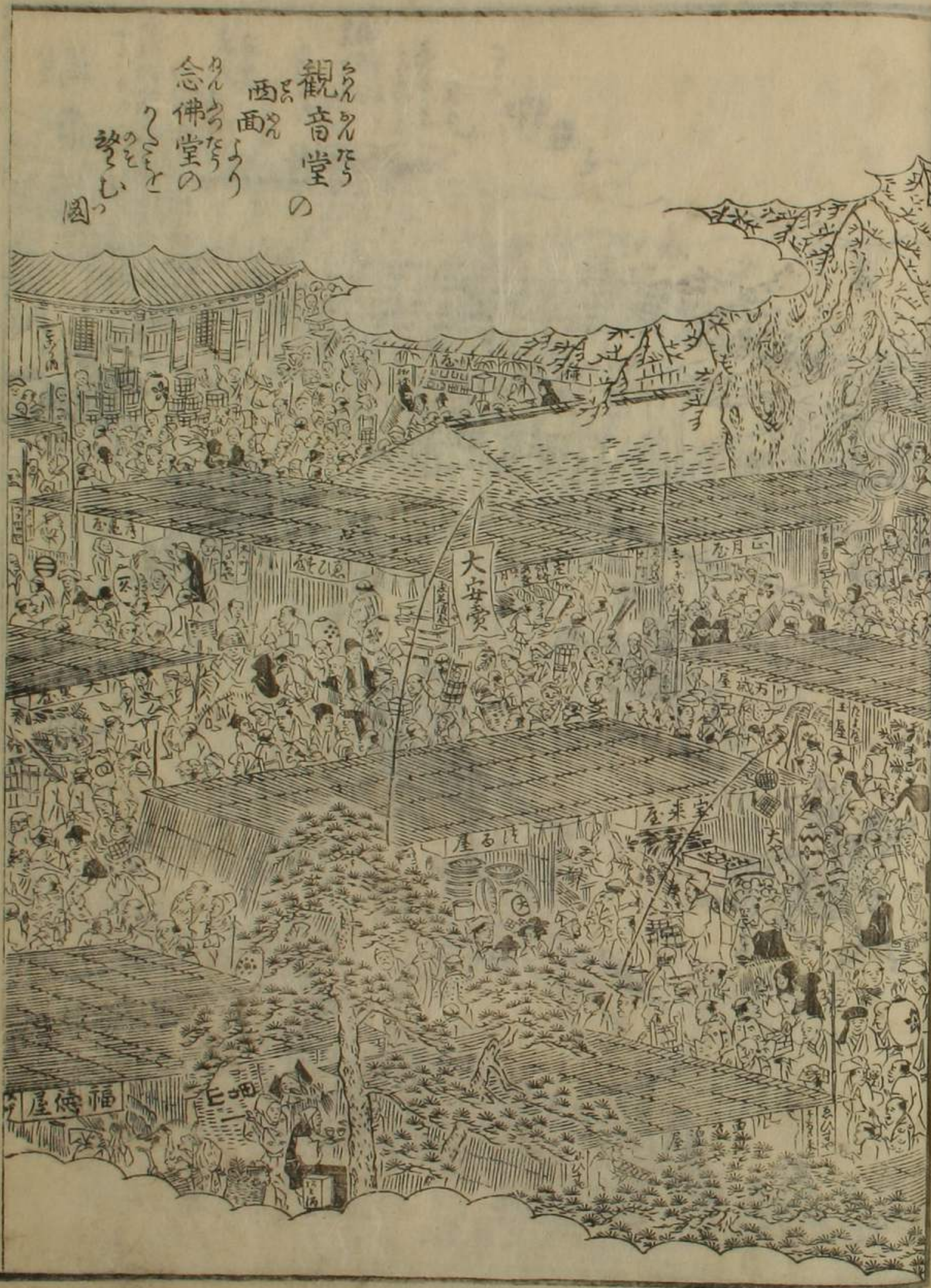
一権現祠
姥ヶ池



さて見むと思ひある時道ひくありと告て田の如く出立て彼石小
 外りのつもの如くを得て頭を打らるる急き物とも取むとく
 引かるとなる衣とあけて見む一人獨りありやくとひてよしく
 それ我娘なりむとされまことひとあさましむも云らるるれ夫
 より彼父母をさす小發ふて度々の悪業をも悲愧懺悔して人々の
 娘の菩提をも深くとめひまつりくると語けけるよ古老の申しれ
 へ

ほむらのつもの世もさる石枕さこそいかり思ちるらめ
 當所の寺号淺草寺といへる十一面観音小てまつそましくひれさ
 霊佛もてま〜〜〜とちむ 下畧

一権現社 因所頭松院の境内小あり土俗あかむ堂と云往古當寺奉る觀世音土現のよと
 ちり小あり堂と唱へんと後世謬て河加牟堂と
 六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸河の入口角小あり小土人此所の河岸とさくくお地蔵
 河岸とらつりこの池の往古より真列海道の馬次ありとそ其頃へんあんの





門前後籠屋町中へは六波羅召燈籠のありし馬を、此の多切ありしとありしは、故小今七年
十二月十八日の市より此邊草海宮と賈の家へ、近より赤松なる旅人より止宿せしむるを
伎云々二年丙寅九月頭義朝當寺觀音（赤松ありし）者堂造營の時、備田正備奉納あり
猶現存せしむるに六尺ありし、此の鮮明ありしと唯久安六月十日、書小十月、兵衛の九守の今
空而小六郎の比多そと彫刺せり

坊舎三十余宇 當寺の儀、草堂一の精舎より、境内堂神並佛甚多、故、抄、小のいとすありしを

專堂坊 齋堂坊 常音坊 此三坊、儀者二人の遠裔より、妻帯されし今、ありし

觀音累塔記牛玉室印等と出せり 時、三入の輩三基の神典を供奉し、又三坊のちより

雷神門 當寺南の總門ありし、左右小風雷の二神を安座し、明和の圓縁小帶りて鳥者となり

額 金龍山 曼珠院二品良尚親王眞蹟

本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇、土師臣中知といふ人故あり

さて此地小流浪 同本紀曰、仁天皇三年、野見宿禰小娘、去師長を賜ふとあり、野見宿禰

登辰奈利とも訓せしむ 院佛云中知の奈加登辰又、院、天極日命十四世の孫ありしと、小知も此遠裔なるへ、山岡明河、

人慎小漁獵と産業と、一と小年月を送り 檜或、檜前小、傍、新、櫻、此、氏、縁

小作と可き、くんとし、續日本後記、小村前舎、直由、麻呂、武藏國、美濃、の人、小、七、去、師、氏、と、祖、を、同、

す、と、あり、又、延喜式、兵部省、諸、坐、る、牛、の、牧、の、中、も、武、藏、國、檜、前、馬、牧、と、あり、是、等、小、と、記、

同三十六年戊子二月十八日の朝、碧落小雲消て、艾君、慎、小、

風、静、ち、ま、り、れ、小、舟、小、乗、一、此、所、の、仲、小、出、て、網、を、下、さ、小、儀、草、川、む、り、

遊、魚、い、さ、り、小、れ、く、鏡、度、も、同、一、觀、音、大、士、の、そ、る、像、の、ま、り、を、湯、の、

異、浦、小、至、り、て、も、い、さ、り、ま、り、依、て、主、從、發、ま、り、是、を、奉、持、し、歸、り、

機、縁、の、淺、く、ま、り、と、お、ひ、て、其、家、小、安、す、と、い、と、も、唯、眞、眞、の、様、小、雜、り、

と、忍、り、の、こ、世、小、草、刈、の、童、集、つ、く、藝、を、と、り、つ、く、儀、の、 御、堂、を、造、り、と、い、つ、く、も、揚、起、小、所、見、ち、り、

多、免、て、一、字、の、香、堂、を、経、營、り、彼、尊、像、を、安、座、し、奉、り、今、の、二、權、現、の、 其、

後、舒、明、天、皇、の、御、宇、十、年、戊、戌、正、月、十、八、日、靈、告、あ、り、て、回、祿、す、其、後、又、三、月、

夫、より、回、祿、七、度、小、乃、多、く、と、い、つ、く、も、奉、り、自、ら、火、熾、を、免、と、お、ひ、て、恙、れ、一、人、奇、奇、り、と、す、

是、累、年、は、地、の、儀、獵、殺、生、を、業、と、し、て、行、穢、の、所、ち、れ、焼、除、て、其、所、の、靈、場、と、さ、り、ん、り、を、ま、り、

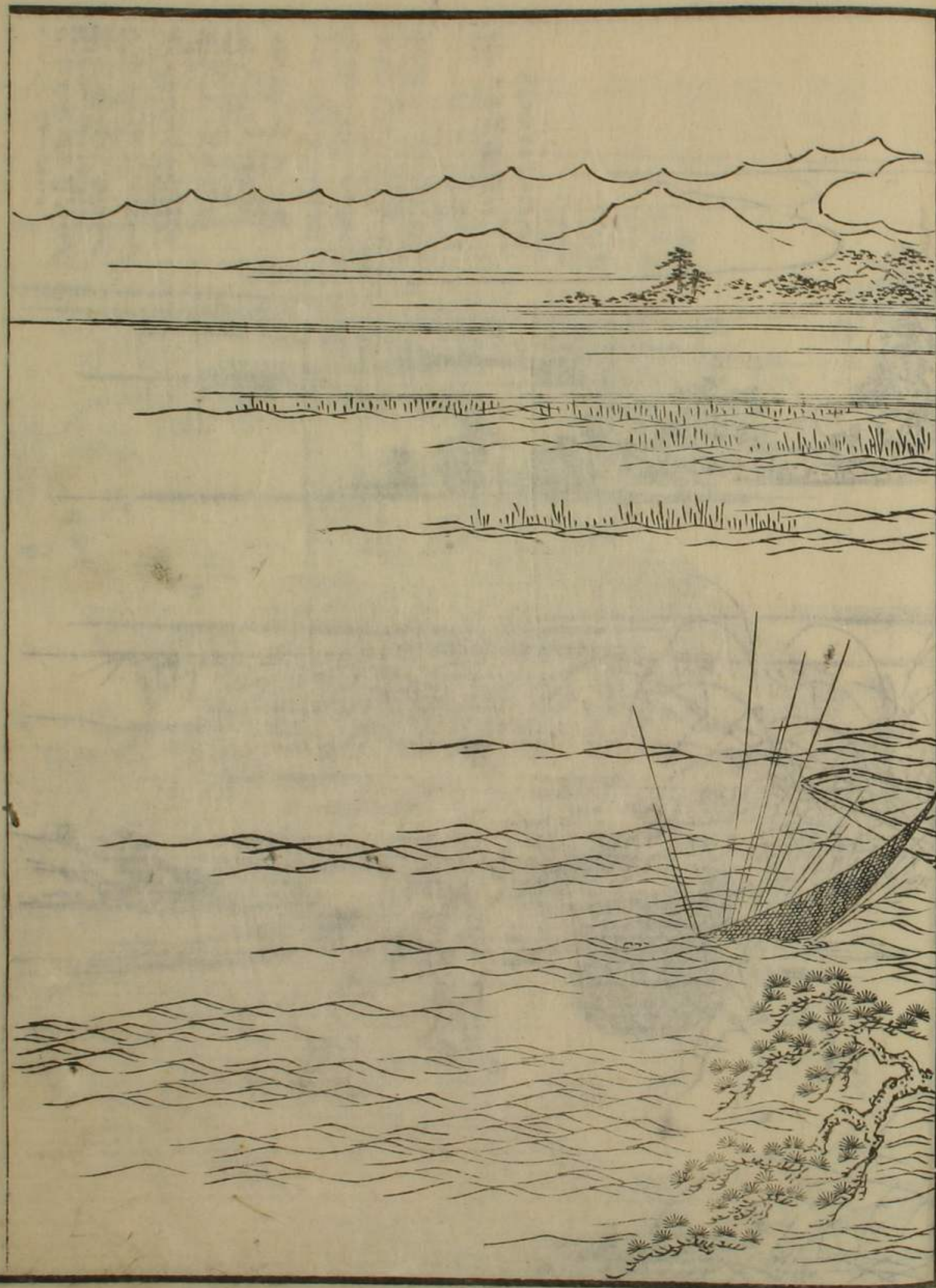
ハ、奉、り、示、現、あり、と、い、つ、く、も、依、り、の、ち、の、ち、 後、久、く、堂、宇、破、壞、小、を、よ、ひ、と、孝、德、天、皇、大、化、え、

年、乙、己、勝、海、上、く、東、行、の、次、適、と、小、未、て、再、營、す、則、當、寺、の、元、山、と、稱、せ、し、の、と、

て、奇、異、の、靈、告、を、か、り、む、り、夫、より、勝、海、上、く、奉、り、の、靈、容、を、拜、 天、慶、五、年、壬、寅、安、房、守、平、公、雅、

已、降、秘、佛、と、し、拜、す、る、の、ち、大、系、小、從、五、位、上、 武、藏、下、野、兩、國、の、守、小、任、せ、り、と、あり、又、同、書、小、同、四、年、七、月、十、六、日、前、記、

將、門、純、友、珠、數、の、時、也、



辰子三月十八日あり
 推古天皇三十六年
 後草寺觀音六士
 の土現あり一ハ
 檀前賞成武成等
 の主従三人の宮
 戸川に廻をわして
 は本物と傳まり
 一よ一録記
 の中より詳あり



往古土師臣中知とよみ
 樽前濱成武成等の
 主従は草川と細して
 親音大士の遺像と
 感得せし此所の
 草川集て萩と
 りて後の海堂と他
 を用は彼平を
 安産しきり
 りひげん其四谷の
 東谷一の権親の化
 るり草川後神よ
 きて十社権親と
 して



妙山禪師の遊小笠原年中近の禪札小武別作越後主大進寺 忠善上人を以て別當殿とす

駿河守是を奉行すとありと云々 北条幕下遠山丹波守の赴きあり又其師忠海上人と云々 根元細川律師定禪の未葉武田金澤の城主 伊丹三河守の赴きあり三河守宿願の事あり其子と成門と一當寺の別當と云是より後ハ代々伊丹連山の 相續り別當殿とす 然る小元禄年中故あてて 或人云貞亨の 別當知樂院権僧正宣存

鎌倉へ退居し夫より東叡山小属を當寺奉尊ハ殊小

大神君 御信仰最厚小依々寺領若干を附せしと云寛永十九年二月十九日

田録の後も慶安三年庚寅六月三日手鉦をりあり堂塔御建立あり

のり により後理と加られ誠小無雙の靈場と云

後正會 除夜より正月六日小 牛王加持 同九月己の刺執行す同日三社 多羅尼會 同十月より 七日の同日夜 神輿と本堂より 拍板獅子舞あり 神樂と儀草の大通りと渡り 浅草橋小 區産と修行す 神輿と本堂より 拍板獅子舞あり 武列の儀草の大通りと渡り 浅草橋小 ありと云

義市 同日近庄の農夫儀を持し雷神門の前 拍板 毎年六月十五日執行す此日七月十七日の 其神輿と修行す此祭礼の鎌倉右河原軍再興 十日祭 七月十日の夜より奉詣群集より俗小の ありと云

年の市 毎月十二月十七日十八日おのの儀小假屋を假け住連飾達業飾物等す 常小の買小 用ひを種くを賣買す 浅草大通りとも小群集す 殊更境内ハ尺寸の地を

抑當寺ハ一千七百七十有余年を存の衣刹とて實小日域無雙及般急日日の靈

區あり其靈驗の著るハ普く世小知所あり常小金鈴玉磬の響音絶す燒香

散善の勤行怠る者あり 朝より夕小至る迄奉詣の貴賤袖を連々場あり

克満ハ殊更月毎の十七日ハ通夜の緇素堂中小奉詣一と終夜誦經念

咒急慢あり又境内賣物の扱より中も錦袋圓儀草餅揚枝殊枚五倍

子茶釜酒中花香煎浮人形の類殊小浅草海苔と其名世小芳一手遊

錦繪等と南小店軒とありと云他邦の人と小至り其勢昌と云

浅草川 隅田河の下流より舊名と宮戸川と号す 古希小三 白奥系鯉の

二品と此のの産と云美味より是を賞り鰻鱺蜆又佳品とす

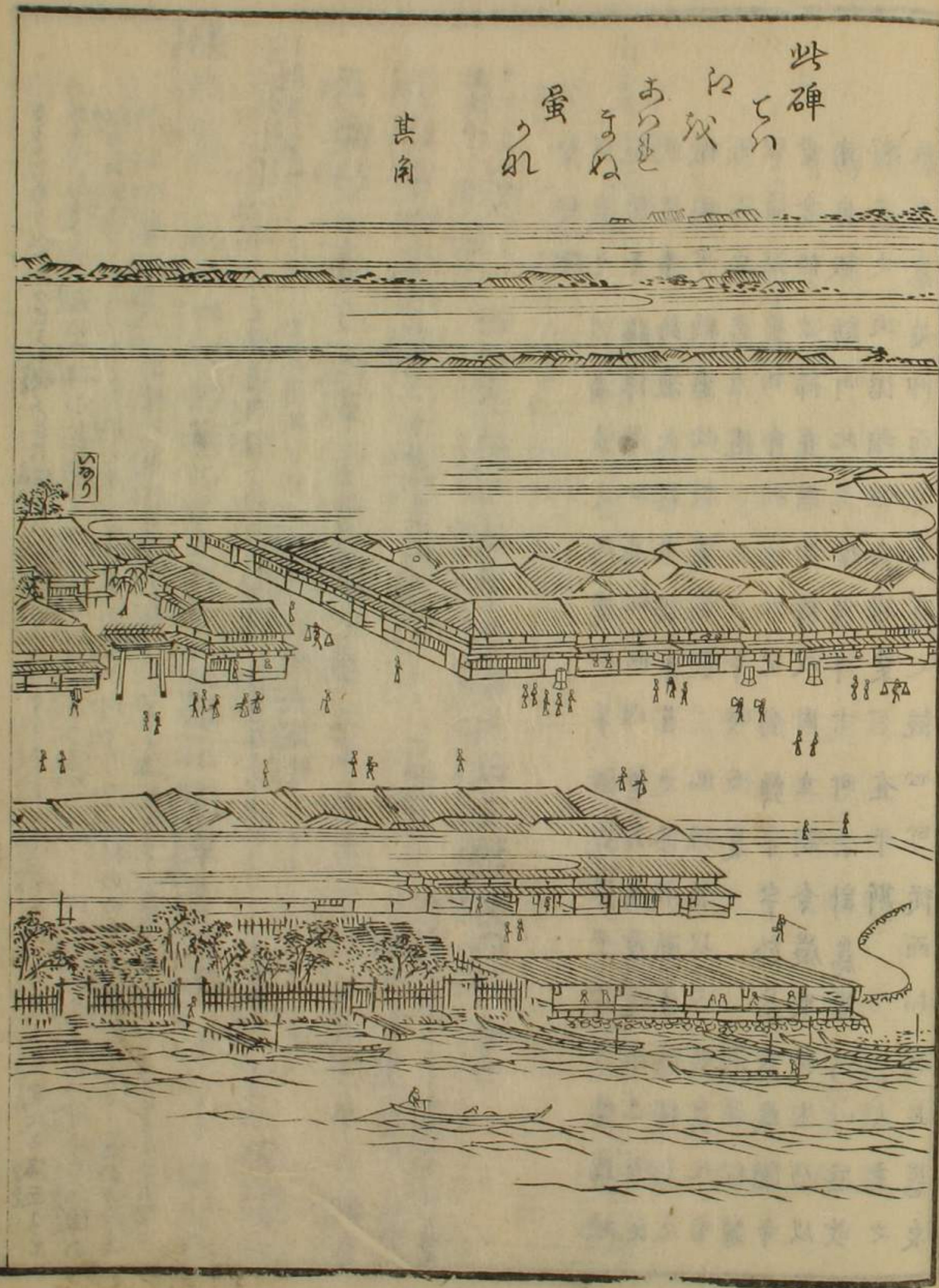
按小本より縁起の中小宮戸川の中小細と云りあり係平盛妻記ハ後兼は年九月頼朝下

總より武藏ハ并越らるる条下小名價とすす齊ハ江戸を流り知行不ありあり西國船の着た

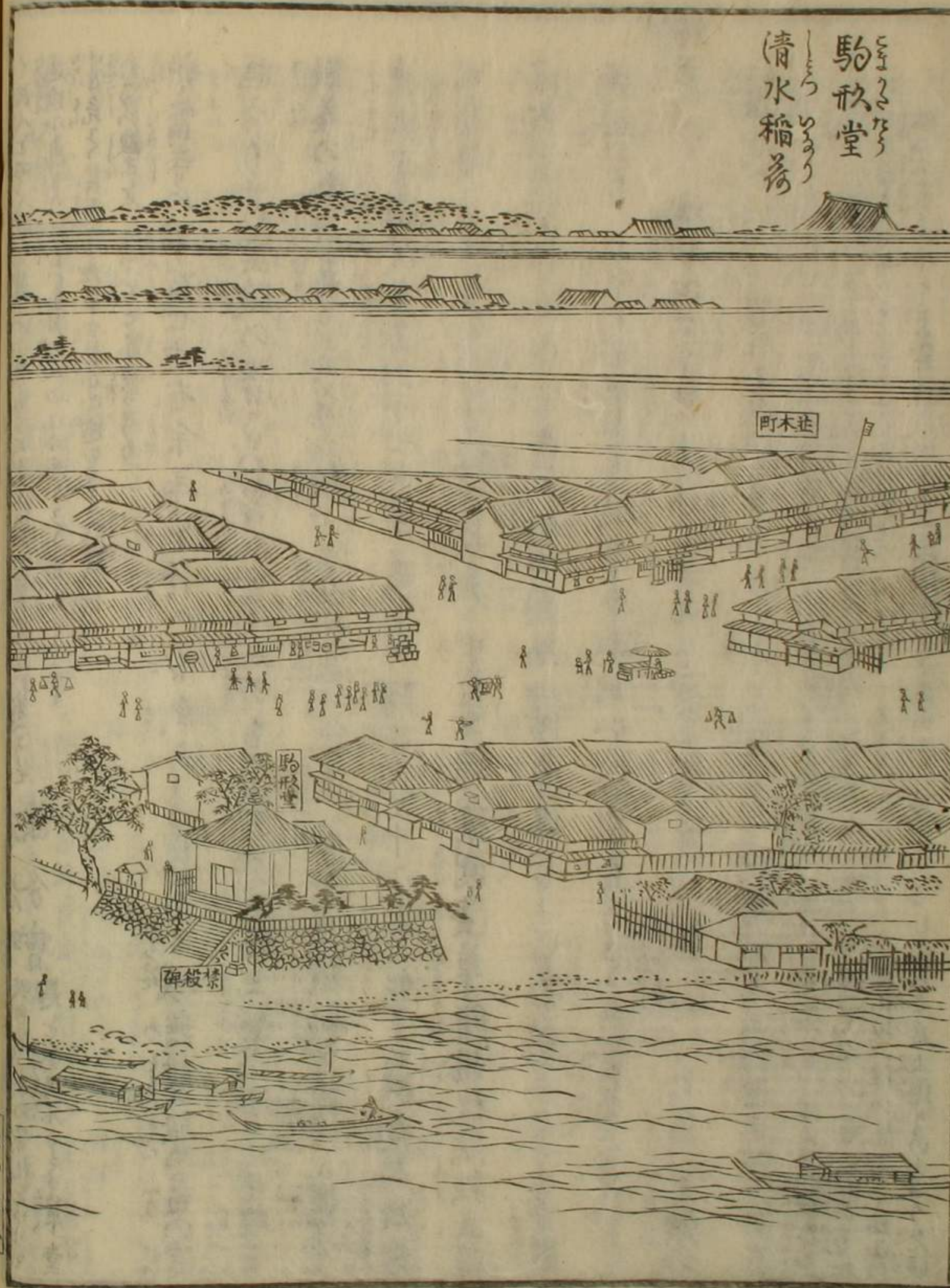
るを板千艘あり三日の中小停橋と云とありと云り往來ハ名價の出入律の儀あり西國の

船ハ未と云えたり又氏康武藏野記行小隅田河小着必中要むらハ安房上總のありと云渡

魚分會 此日魚分の守札と云



此碑
 乃成
 あり
 虫
 其南



駒秋堂
 清水稻荷

町木辻

碑校

ありとあり今わづらひて... 舟の目的ありありと... 寺島柳島牛島六島... 駒形堂 駒形所の河岸小あり... 馬頭観音あり... 堂造営の時此堂宇も建... 此堂の傍小浅草寺領内殺生禁断の碑あり

禁殺之碑 武藏之川 遠出乎源近注干海大悲薩埵
 現像在昨而著其為靈境亦己尚矣
 然固可厭惡伏惟靈刹數回祿蓋以大悲爲此有
 所不安也幸遇禮崇三寶因立制令嚴戒殺生乃以
 四海深重命猶如新成十所計爲界嗚呼盛哉
 堂舍修治補苴猶如新成十所計爲界嗚呼盛哉
 南自諷訪北至聖天岸一在干斯區區愚哀
 好生之德種福之勝業觀心可從而知區區愚哀
 天恩足仰而望菩薩之觀心可從而知區區愚哀

感仰有餘乃爲銘曰
 維斯一心類好惡同然以我則乖以觀則圓
 鱗介異味速禍取愆畏報於後思戒於其
 管生嗜時慈悲如天網罟作禁魚鼈無度
 文但物命因慈得全教化所及弊習能悛
 豈但物命因慈得全教化所及弊習能悛
 元祿六年次昭陽作靈春三月及

三島明神社 駒形所の西二丁より小あり... 其地より清泉涌出... 清水稻荷社 駒形町小あり... 其地より清泉涌出... 其此酒入ぬ...

其地より清泉涌出... 其此酒入ぬ... 其地より清泉涌出...

すこれいれは清の頃まゝ其清水泉然りとありまゝ今池のまゝより後園院へ
 行道所を廻りて移る龍の谷合より流せりる清水ありこゝをまゝとす
 又江戸名所記の説

小弘法大師東國遊化の御武藏國まゝくひとりの小坂小
 東叡山西の麓清水門
 の坂是よりとす

あゝ頃老女の水桶を載て行り大師彼の水を乞たまふ時老女の云く此辺より
 水ぬく遠く是と汲由すうゝられ大師憐み獨鉢を以て加持たまひ

其所小清泉涌出と共傍小當社と勧請しあひたるといふ

諏訪明神社 同所諏訪町小あり祭神の信忍の飯傍小同く健御名方命

ありて當社の権導に至て久遠より未由等詳あり

権寺 同所黒船町小あり淨土宗より増上寺小屬す此中山正覺寺と號す

奉尊阿弥陀如来の惠心僧都の作りて宍山の觀智圓師あり往古當寺小

名あり大木の権りり一故小号とすりゆり

石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 台命小仍て石清水正八幡宮を

勧請せり 昔の文殊院の八幡と稱し高野山行人流の僧住職 別當を大護院と号し雄

徳山と云は山幸沼法印あり護摩堂の本所の五大明王より運慶の作り



弘法大師東國遊化の
 とすり武藏のまゝ
 五りひとりの小坂小
 のまゝとす
 大師深く是を求め
 ありて當社の権導
 に至て久遠より未
 由等詳あり

三島明神社
 諏訪明神社



偏魔堂 八幡宮より南の方式三丁と隔つ称光山長延寺と号し奉る偏羅王

の運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小園王殿と号し延享年中未聘韓

人の筆なり當寺の慈覺大師草創ありし時昔ハ下野園小ありしと文承年

中此地へ遷すと云 或説小昔の震うまありしと園初の頃も嘗て 毎歳正月七月十六日矢

詣群集す 化馬地藏尊 昔佛まを排傍にありし是を化度と云ふ

棄衣婆像 運慶の作りし奉る 花山觀世音 花山院深く觀音薩摩と云ふ

佛眼上人として慈眼供養せし法皇より規音の畫三十三所觀音禮頌ありしと云

祇園社 同所園魔堂の南小隣る當社牛頭天王の天曆年中の眞座ありと云

大倉前の總鎮守小して別當を大田寺と号し 十王堂 境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云

銀杏八幡宮 同所福井町あり傳へ云當社の永美六年源頼義朝臣同

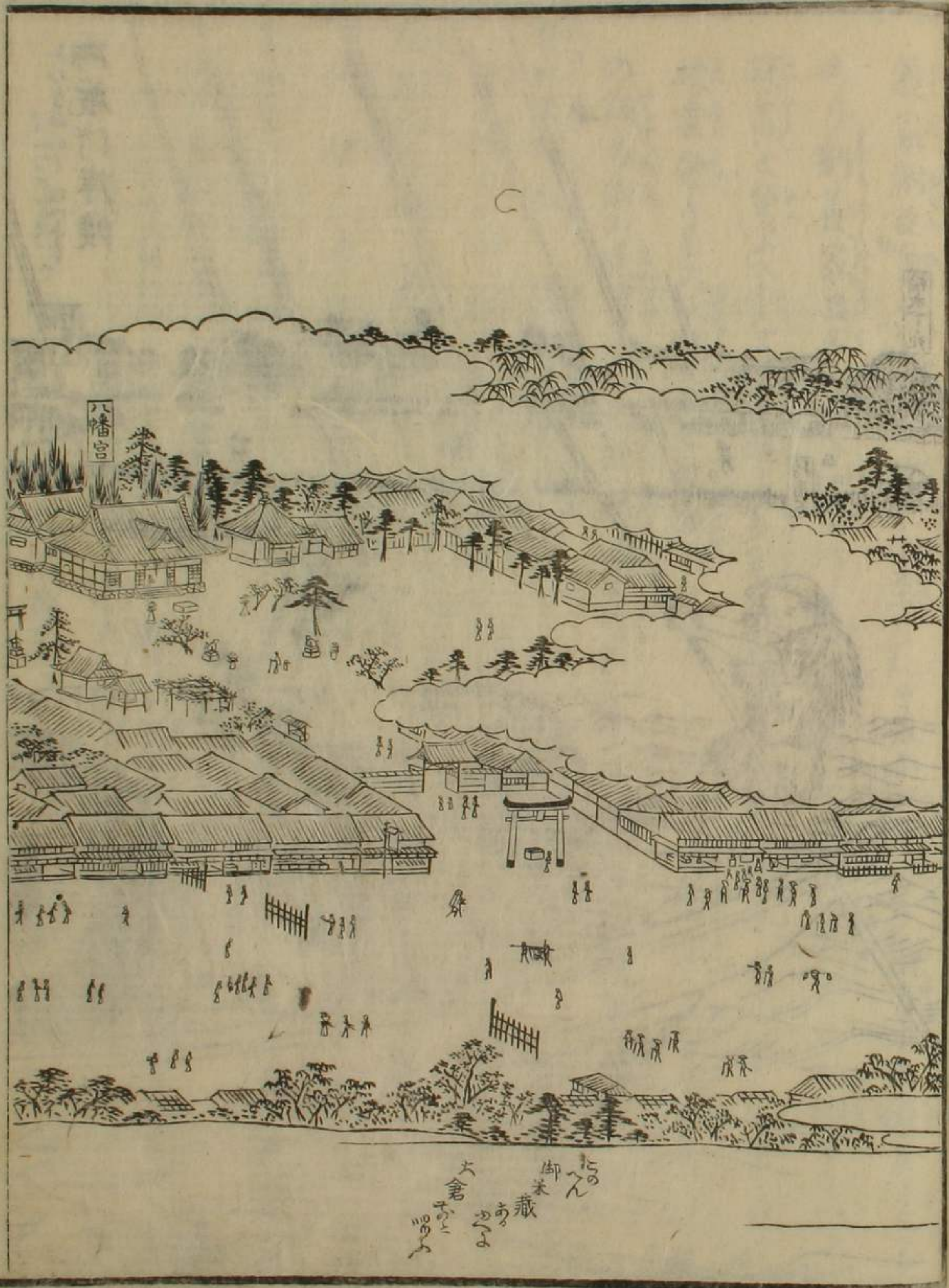
の像を安置せり

境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云

境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云

境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云

境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云



大倉
 御蔵
 御米
 御蔵
 御蔵

正覺寺
 八幡宮
 文方



八幡宮

御厩河岸渡



義家朝臣貞光の向の時と小至りたす小川上より銀杏本の流と来り

あり則義家公手はくく地はは一誓言て曰朝敵退治勝利の此樹すまふ

枝葉と栄へへとあり遂は其軍勝利ありて凱陣の時々々ひまふりぬま

枝葉栄々止ハ八幡宮を勧請しぬいと其昔ハ八幡塚と唱々りともん神本

の銀杏樹の延喜二年の秋暴風よ吹折て今りく小其枯株を存せり

第六天神社 浅草橋の外より昔ハ大倉前本林田町小り一坂自保口年火

災の後今の地に移る祭神、面足尊檀根尊なり 天神代祭りの毎歳六月廿日あり

藤塚稲荷社 当地の旧社なり 注古はちて茅束の里と 祭りの毎歳六月廿日あり

作一畷入道一社の例は庵室と結ひて住む別當玉院ハ三橋路ありと云り

越里 越明神の辺より大倉家の辺までとより小倉家分限帳ハ富永若丸門

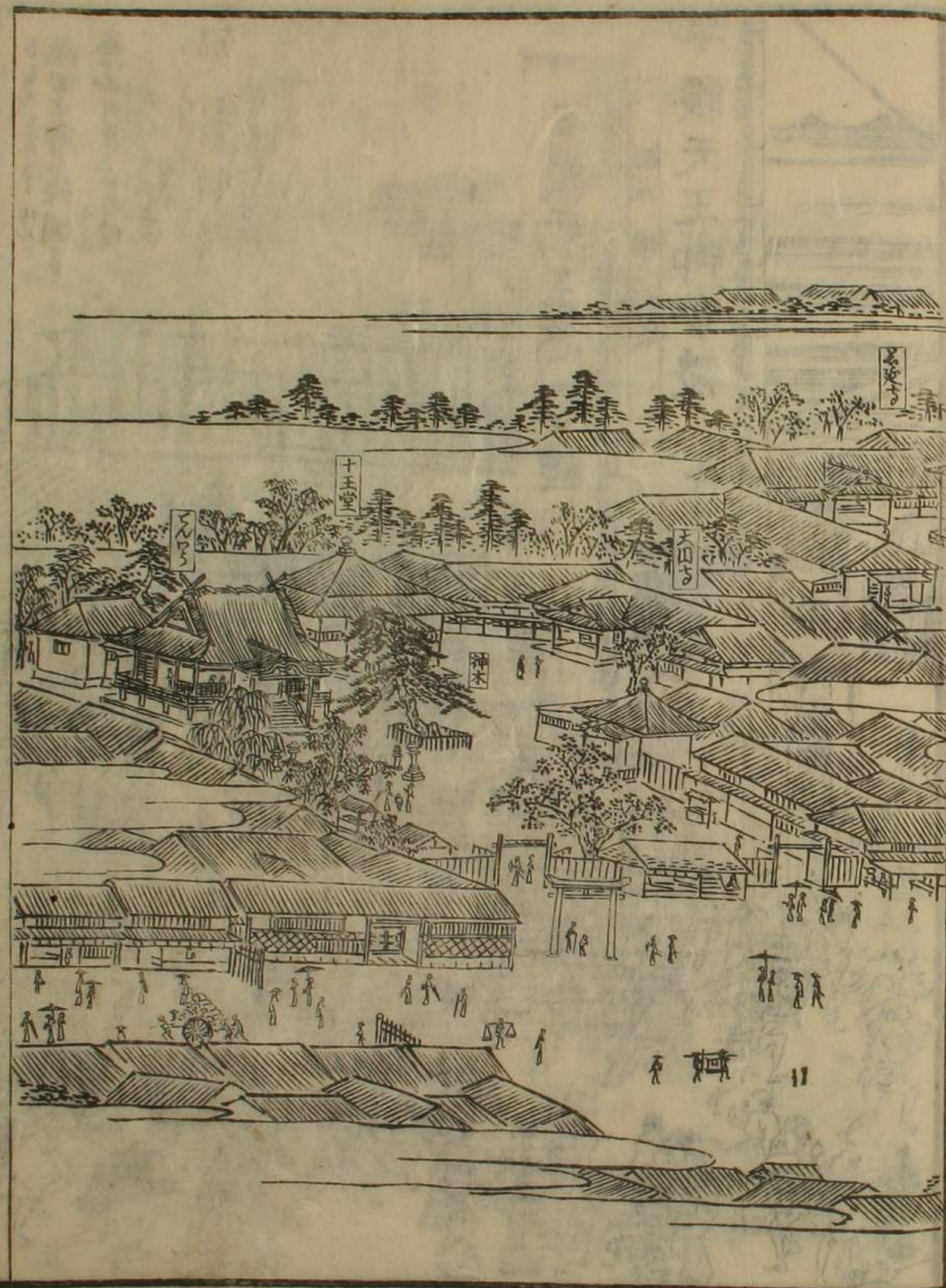
江戸越里村の内と傾すも一記せり

先惠北園紀行ハ文明十八年十二月廿二日隅田川の辺を越といへる海村ハ若澗といへる箱より被宅

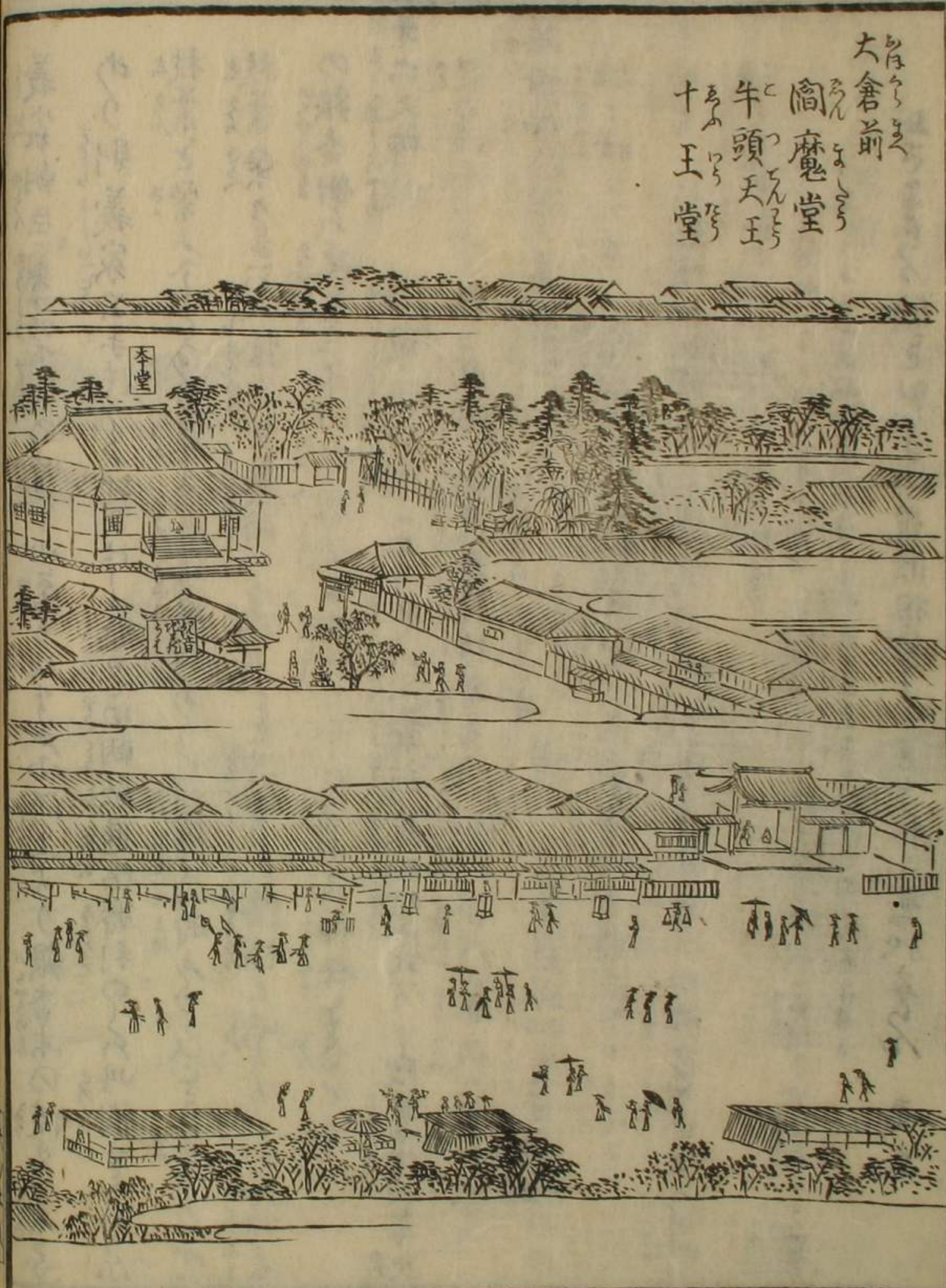
ハ蓋やとりハ雨林ハありぬる金元古ハ在當ハ一もつり同十九年元旦日

おつりせむるはとせむるは荒は根のすりと志す小倉若丸

先惠



大倉前
 同魔堂
 牛頭天王
 十王堂



第六天
孫塚稲荷



田圃雜記 鳥越の里といふ所へ行きて

暮小たり平らりの川くといそく日小あれ寝小行鳥越乃里 道真准后

鳥越明神社 元鳥越所あり此邊の産土神とす祭神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔の第六天神熱田明神と合せて鳥越三所神社と号けり正保二年此地

より熱田の三谷の地より第六 當社の最古跡あれとも舊記等散失して勸請の年曆

未由等詳ありすとより祭禮ハ隔年六月九日あり

東光山西福寺 良雲院と号け 良雲院殿 御尊殿と号け小孫一 鳥越明神

より三所を東の方小あり江中浄宗四ヶ寺の随一して奉尊阿弥陀如

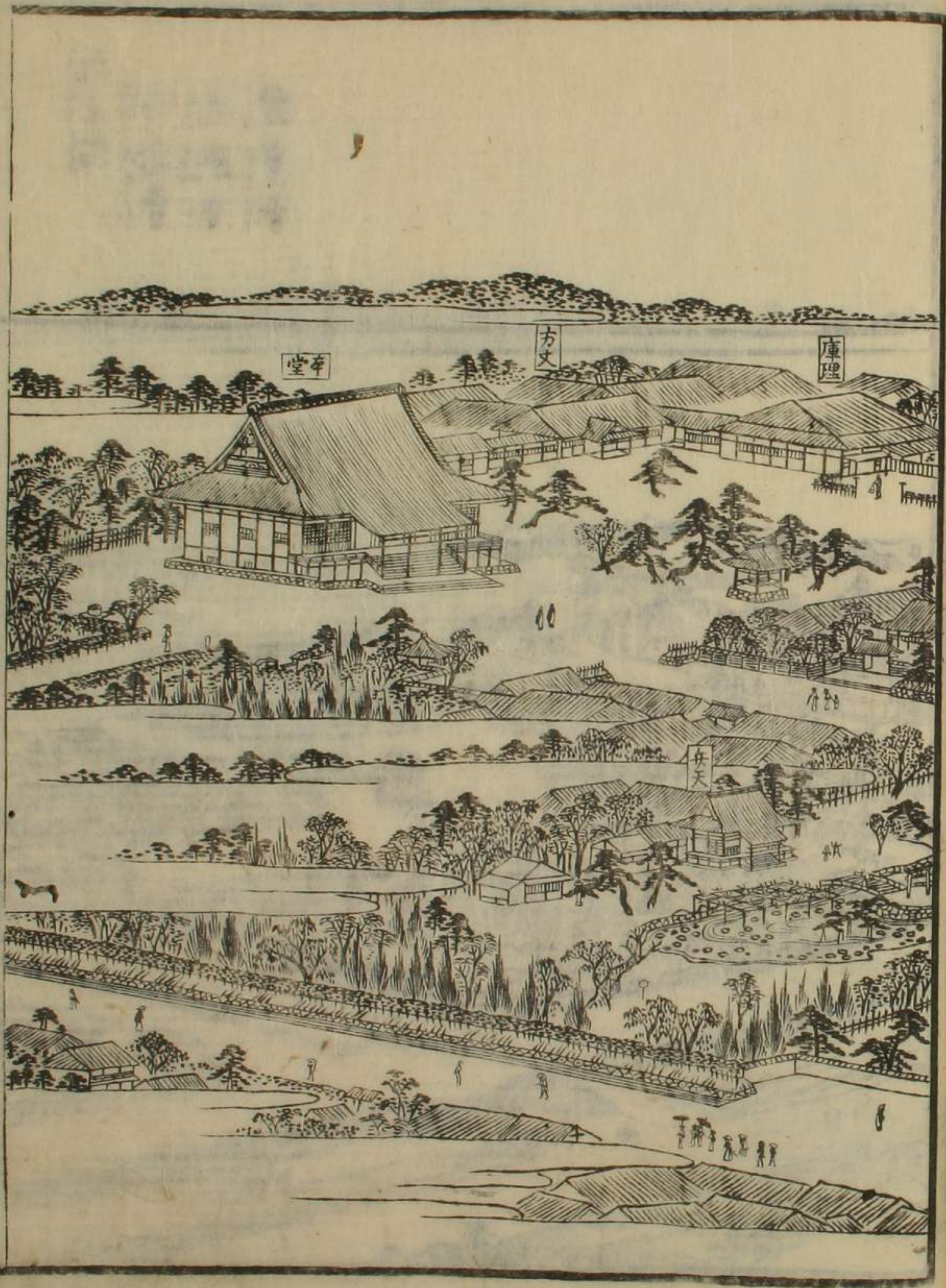
奉阿弥の作あり 三カ所より 元山を真蓮社貞譽了傳上人と号け 元和八

寂を 遠の扉り剱戦死の迷魂得脱の師あり 迷魂得脱の功ハ武父の戦功

小等一々此の其功を永世に傳へよと 神祖 松平の御称号并山号

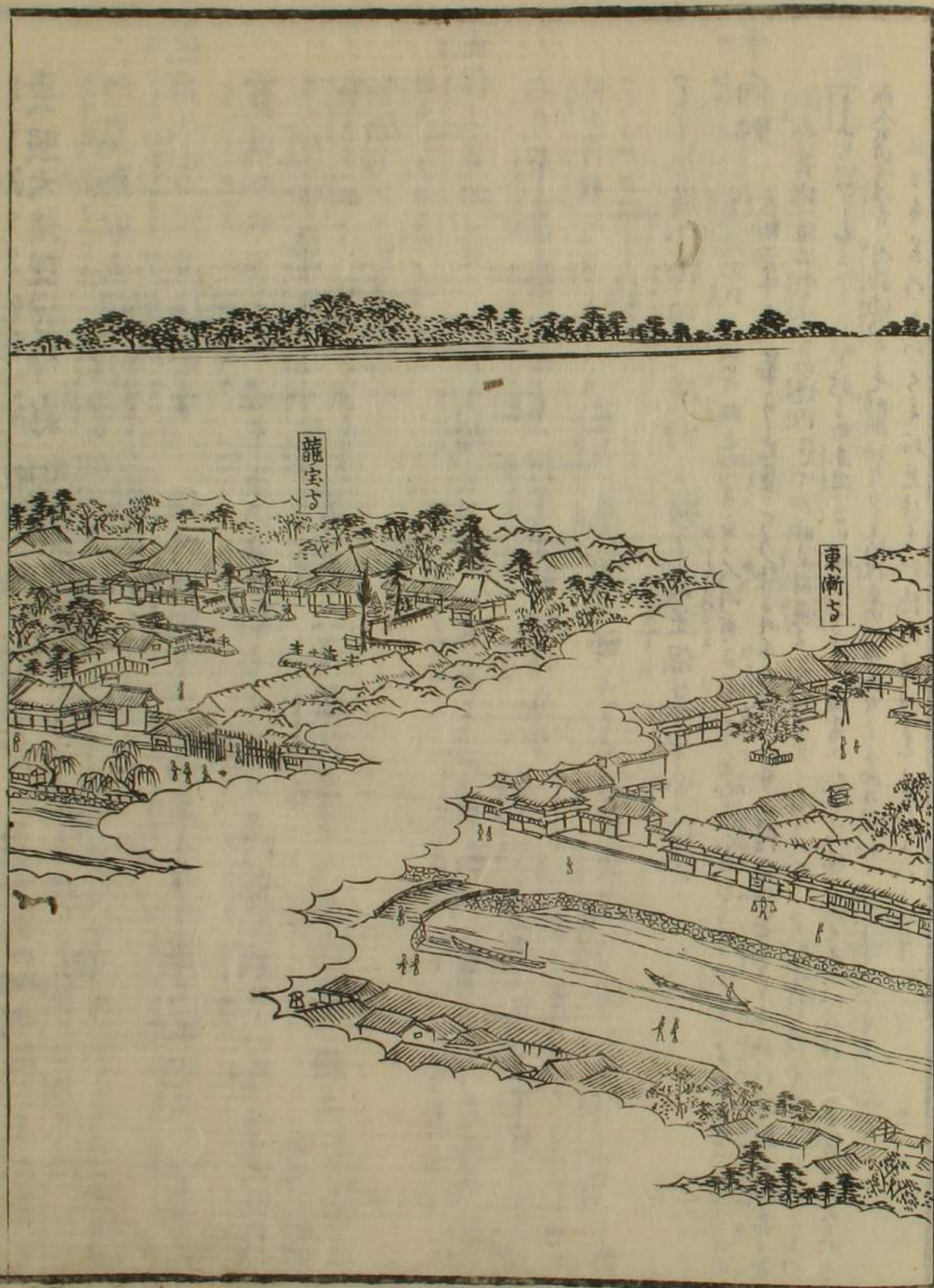
等とあり往古三カ所ありと慶長の頃 台命に依て此の國後河臺

小稱され又寛永十五年今の所よと地をぬか一其中法幢を五檀林小准と



西福寺
まぐろ





新沼
浄念寺
東漸寺
龍寶寺



東照大権現宮神影 神祖并ニ 台徳公及び 解雲公の御壽影を以て附せり
 仁島辨財天祠 此寺の傍に辨財天の御像ありて法法大師の筆ありと云り
 化用山常照院浄念寺 同所西福寺の北の通あり浄土宗元山ハ性善上人

露休和尚 永禄年中の草創と云ふ
 阿弥陀如来 慈覚大師の他
 浄土宗元山ハ性善上人 寛永十二年駿河臺より今の地に移る 大師の作乃

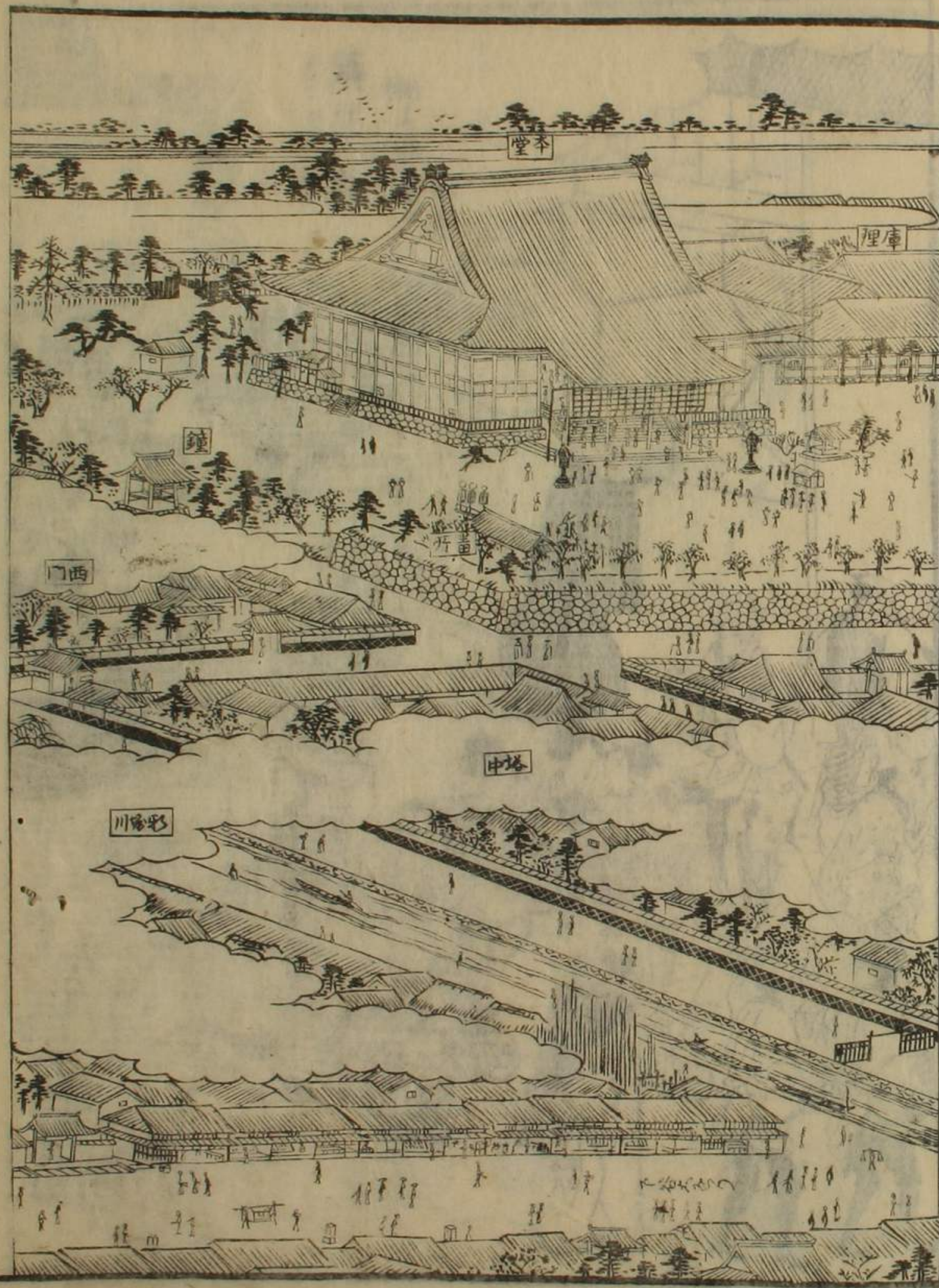
正保山東漸寺 醫王院と号す天台宗にて東叡山小屬を浄念寺の北小
 あり奉尊藥師如来 行基大師の作あり
 元山ハ慈覚大師 今ノ地田道灌再興と始御塔内あり

手向野 寛文の比戸田茂睡といふ
 正保年中 今の地
 記云其地ハ同不全塔の境内にて茂睡史婦並ニ一子伊を葬りあり

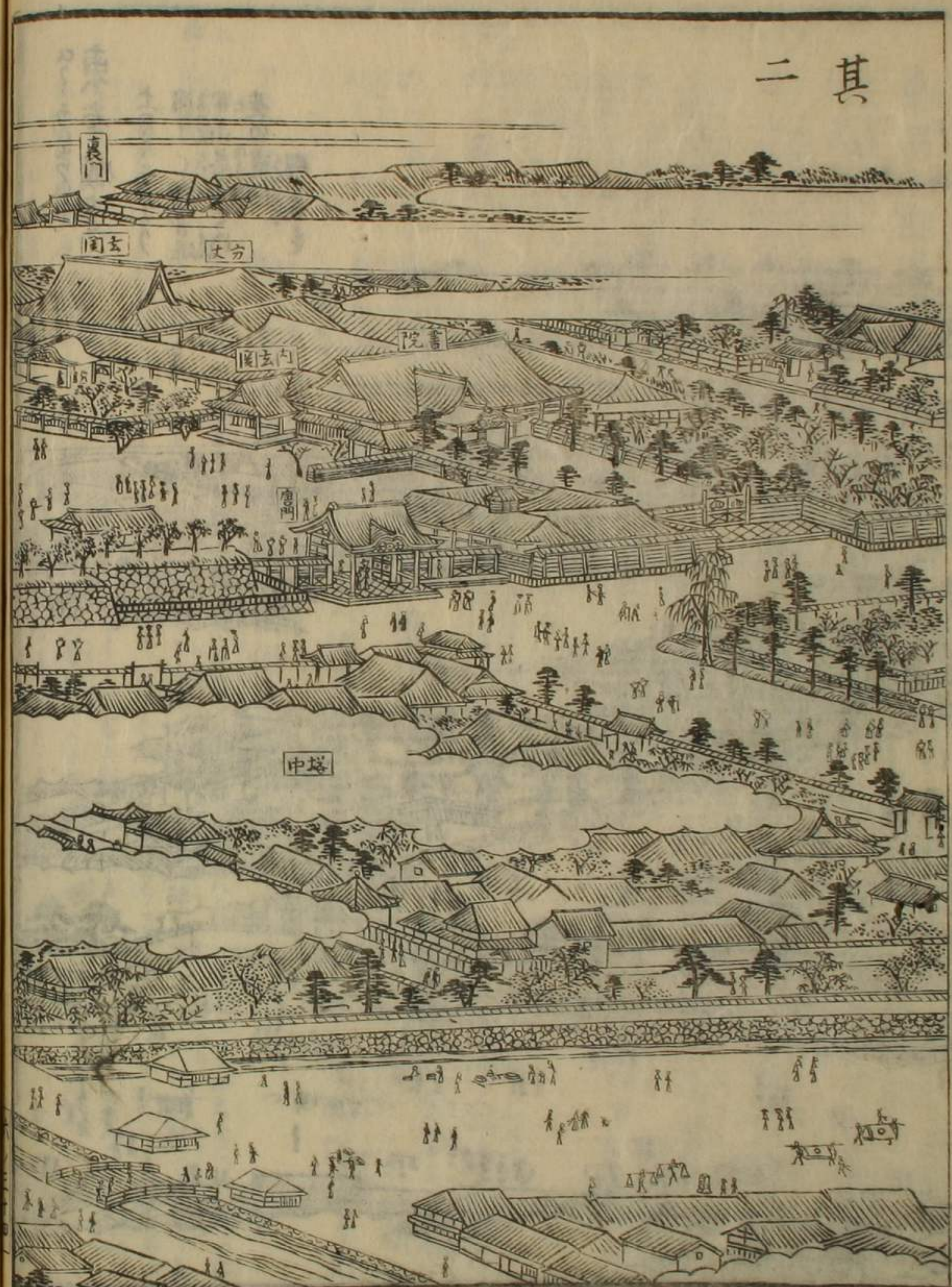
東本願寺

土月廿二日より
 同山忌とて
 徒の道俗
 群衆を





其二





東奉願寺

新堀端大通小あり完山教如上人其先奉山の住

徹たるを豊臣家のまかりひとと頼如上人の舎第を奉寺の門跡小定め

らと教如上人を故る退隱せり裏屋舗小並れを此故東門跡を

神祖音小召出され完祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の未を

新の御堂屋舗成下賜る夫より後東西とつかる其後此寺未寺建あり夜中

一寺成建く京都よりの輪番所より此中門徒を勧化す此則神田の寺此を庫領す

其此今日昌平橋の外加賀屋敷と唱る所之明誓の後今の比小侵されり此

御縁館とるる

高龍山報恩寺

謝徳院と号ん東奉願寺の東隣る一向所として宗

祖上人の遺跡二十四葦所の随一あり此寺より總四豊田の左横曾

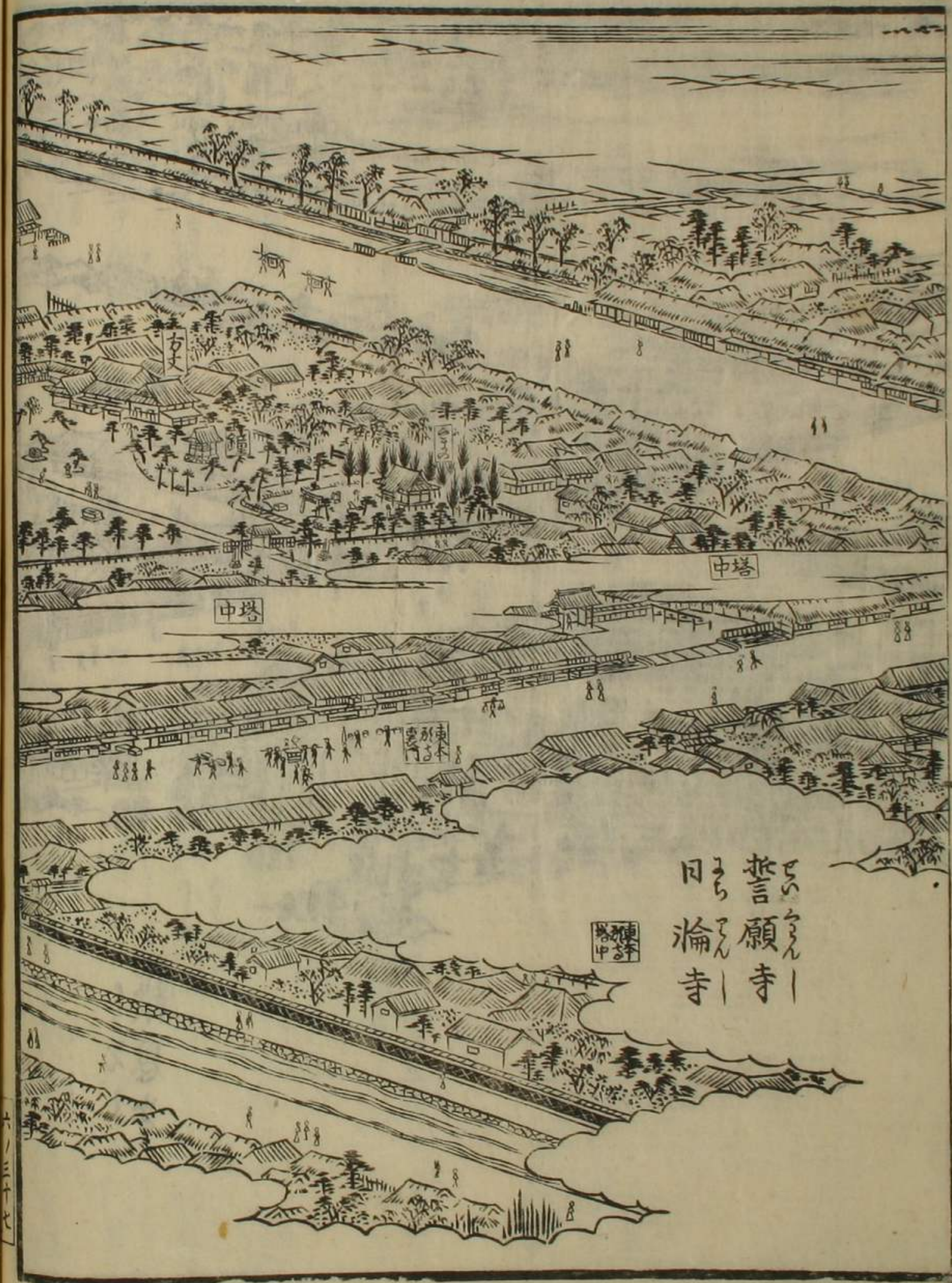
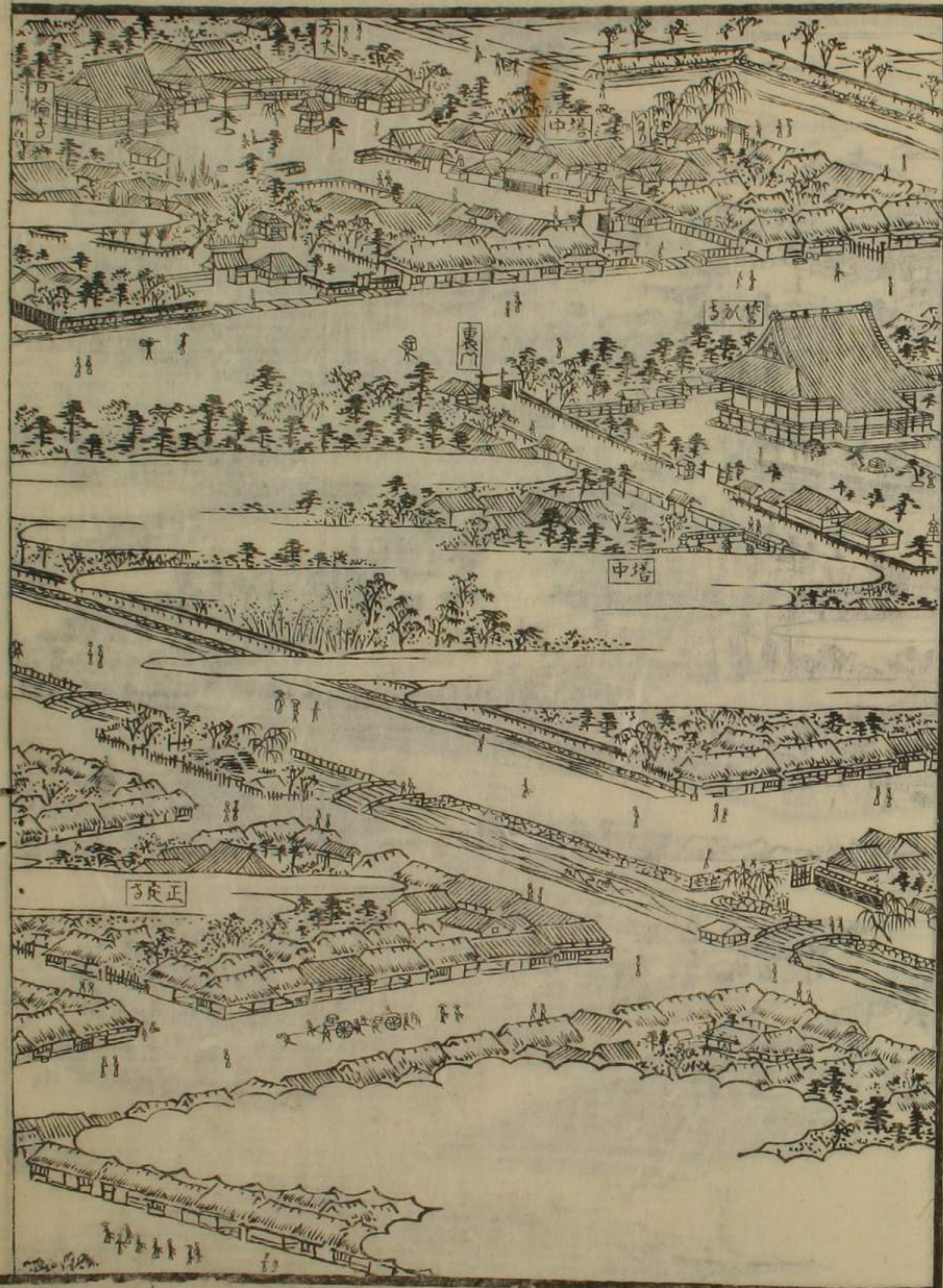
根子有る數十世後結城の城主七郎左衛門晴朝の臣支賀答行某

とつる者の為よ寺領田等と等と押領せり終り武刃刃移り梯

之花會 毎年七月七日真行也 完山忌 毎年土月廿四より廿八日までの間續行法事あり 僧小是を御講と稱す一は報恩講といひそのあら

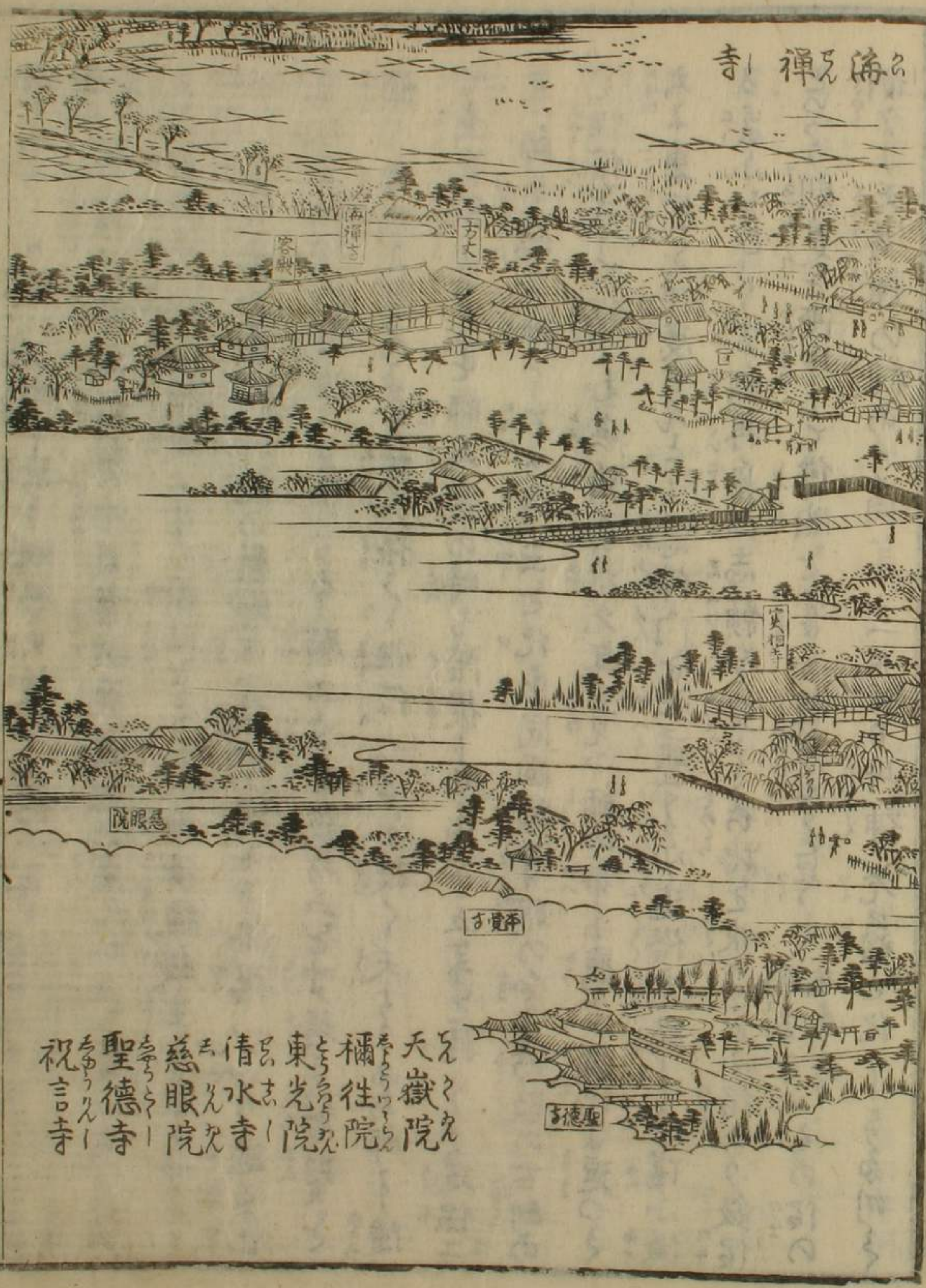


報恩寺

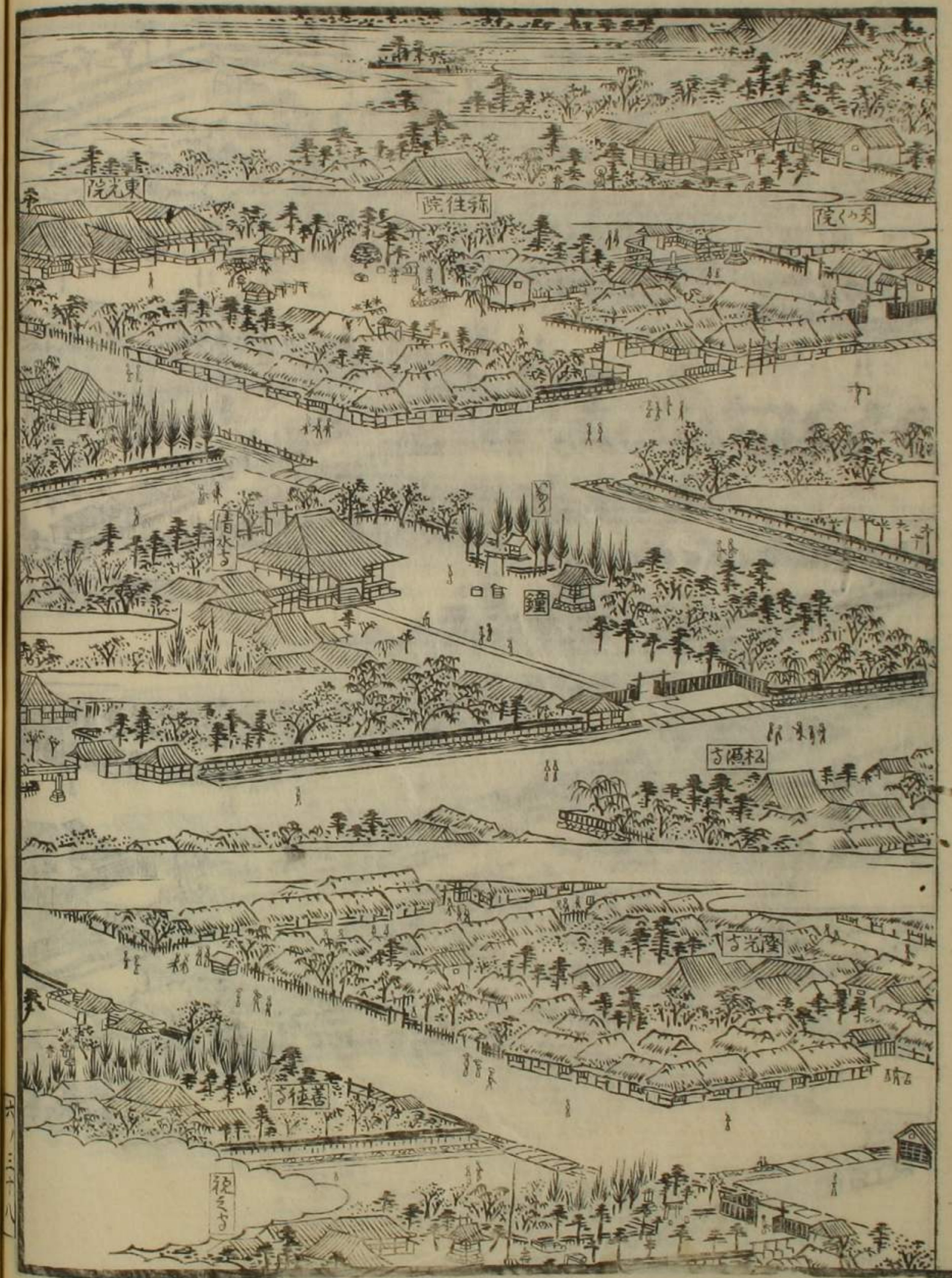


誓願寺
日輪寺

陳中



天嶽院
 禪往院
 東光院
 清水寺
 慈眼院
 聖德寺
 祝言寺



田小あり一後八丁堀より明曆火後今の比小あり舊比根小ありの
猶存手と軍光寺と号し今り兎山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之知名を與四郎といふ
天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去る人唯漢獵殺生を事とするの
十八年の春年三紀の熊野山へ詣り歸る洛陽小あり適東山
吉水よびひく法忍上人化力奉願の肯を説めふを以頭よ鬚髪を
薙て佛門にいんを頼み依り性信と名を授く夫より寫師を隨
て昼夜側をさしと師尤遷の時も陪從して凡二十五年を経たり建保二
年師下總より往く大に群生を化せ同國横曾根のや朽敗の古刹あり
を性信をして住しむ其後貞永元年竟小師の命小應一彼比よ還つ
大に東冥を化度りんと念佛門を弘通する小道倍元満く湯小溢
る多小をひく古刹再興の志願を企く其地を求りこ小沼あり飯沼
と云り則是と湮埋して佛圖を營む報恩寺と号す則當寺の
権專ありその沼の
側より天満神の祠あり同年十一月七日此神老翁と化してさるめく

傳法隨喜師弟の約懇懃あり此時紫の戸帳一重
を寄寮の料よき又天福元年正月十日此神何
某の夢小告く曰く是より後永く師資の禮讓として御多洗の鯉魚を
報恩寺に贈るべしと云云依鯉魚二喉を捕て師小贈り師も又是を謝せん乃神
前小鏡餅二枚を供せ此勝茶の例今よき
返れとて鏡餅を供せ則徳化よき天満宮の神前よ供し建長二年の頃性信夢るる
あつて奥列山中より自過去生の枯骨以得たり其地よ寺を營て法徳寺と号す中古
師資の禪宗よ故わ光徳寺と号すを
寺寶 親鸞上人壽像 有し排子を持し左よ珠粒を持し嘉貞己未年性信坊洛陽小あり
彫刻あり性信よあつたりのた高祖よ謂し七東國漸宗風よ化すを信りとのと自
六十二歳の影像ありと云り 五色佛舍利 奉尊名號 十字の石ありあり宗祖上人の
真蹟よて横曾根肉光寺の性信坊過
去生骨 山よ骨と云り 教行信證一部六卷 親鸞上人の真蹟あり貞永元
年上人歸洛のた性信坊あり性信坊過
蛇反釵 長六寸七寸彼平の作とも又い不戒の作とも云り性信坊後會
根の古院よ住する頃其は悪龍すして備もまれの宗を
性信は退々んとするよ力り空く年月をうらり物あると云り斗の僧一人未だ山の傍
熟睡の時よ池中より悪龍きく彼僧を呑むと云るる懐中より寸釵花きく彼悪龍を防ぐ又

出の金剛が止まり足残りわき悪龍を水中に隠れ渡り此際を見れば傍を清く其の件が
越え誇り住てんくは金剛力士の足は土に履てる跡あり則性信彼才奴と云得て悪龍を退けんとせ候也悪龍
雲にまゝて常の三俣の水中に入後その板を證智比止に云ふ候也其信の足あると此鹿島諸舟よき三
俣にふる小風烈しく頂より下向り又舟に乗しててまゝ前の悪龍水中より松岡茶碓上るも
浪にさらちらり候と云わたり下向り又舟に乗しててまゝ前の悪龍水中より松岡茶碓上るも
あられ彼才奴頭よりあり尼是を浮て味る是より後字して蛇及の奴と云りとも
茶入唐菜のせん切あり後細代より候と性信の依る不ありともいり其餘固扇掃四りのカ差刻の
袋に三重曼唐織曼唐織カと云り覺如上人の早の管付すに三十余品あり
田島山誓願寺 伏樂院と号し東本願寺の北にあり淨土宗江戶四ヶ寺の一
室よりして深山に見蓮社東誓上人めり奉る弥陀如来の安阿弥の作りて
世は齒吹如來と称せり傳云往古建仁三年十二月廿八日元祖山光大師室小
在して集會念佛の時金像の弥陀尊佛堂の屏障小映現し頃更りて
没と大師感嘆して乃佛の安阿弥を命じて彼尊空を寫し御長三尺小
彫刻し自ら正眼ありて常々持念しめり同三年十月十五日彼尊像惚
然として口を定れ音を發し親しく大師に十念を授め示末面門遂
小啓齒微露路息と吹詰を發するの状は鬚鬚時の人稱して齒吹
の尊像と云はらひらららるゝとて大師の滅後執觀坊源

智上人 綴起し小松内庵重盛の備中守平朝臣師盛の息なりと云又幡隨意上人自應の
行化儀は保都上人の洛陽智息弟二世ありとあり

ちのめ高野山に常行念佛の道場を創起し蓮華三昧院と号し
彼尊像を傳持して奉ると云竟に安永の未故ありて小後ちのめ
するると云

當寺往昔相の小因原ありと云天正十八年 台命の依る當國より

けされ文禄元年奉銀所壹丁目とて始まり寺地を賜ふ又慶長のころ

神田領田所に移され明曆の火後該草より智地を賜ふ元禄中用譽龍
岳上之國經と蒙り常紫衣を賜ふ亦末に降檀林の中より佳徹す則
當寺の規模とせり

神田山日輪寺 芝崎道場と号し誓願寺の北の方より奉尊阿弥院

如來の安阿弥の作り當寺の時宗より當國弘法最初の道場とて
信淨光す 五山真教坊の一遍上人第二世より往古諸國遊化の頃當國豊
鳴郡芝崎村より小ツらひとつの美祠あり

神田明神是なり今の神田橋脚門なる
の邊舊名を芝崎村とせり 其

傍一宇の草庵を結び芝崎道場と号す其の其後あまの星霜を
経る慶長年中神田明神の狭門臺へ遷され當寺の柳屋のりといはれを
賜ふ又明曆の頃今の地小うつる寺傳云く往在より由緒よりて今も隔年九月十五日
神田明神祭禮執行の時ハ當寺より上人以下衆僧等社
頭よりて誦経念佛等種の儀法ありて後神輿を運したるを怪例とする今もよみりて
光明山天嶽院 遍照寺と号す日輪寺の西隣る淨社の法窟よりて天正
年中善空上人草創を宇山圓蓮社満譽上人と号せり奉尊手嶋觀世
音菩薩の唐佛よりて順徳帝建保年中相別鎌倉鶴岡の社僧良真傍都
入宋の時首王山能仁寺より將來せざる像ありて其後豊吉岡の幕下
津田勝重とつる者此像と感得を息え重伊賀國牛島と云ふよみりて
靈像の告よりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ依人民伏して
ふ島殿と稱す其後え東當國に越さし頃故ありて當寺よ収む則ち
内ふ島え重の墳墓あり當寺舊の浅草橋のうらふありり明曆
田祿の後此地小移る

一心山彌生院

同西隣る捨世寺と号す淨土宗よりて奉そ阿弥院

如來の丈六の座像よりて惠心僧都の作り物観音勢至の二菩薩を

安置す宇山の幡蓮社白雲稱往上人姓ハ飯田氏の野別
當寺昔ハ小田原
宇津宮の人なり

ありり慶長年中當國へ移され湯島に地を賜ふ後復今の地小

引きり捨世一流常行念佛の道場よりて殊勝あり當寺ハ田光大師
影の御影あり

薬王山東光院

同西隣る鑿王寺と号す天台よりて東叡山小巖す奉

尊溜瀧光如來の像の佛ユ春日の作り物ハ慈覚大師當寺と草創

ありりここを往古ハ顯密二教とも弘めて台宗一百八箇寺の總奉寺たり

中右内道灌此靈像を崇敬り地味の鬼門に置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教法親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興せ

神祖其院主は命ありては長久の御祈禱よりて正五九月小般若經轉
讀せしめらる此例今もあつて慶長の頃近常盤橋の地あり其後傳へ所なる其地
さして今も茶師堂あり浅草の地を移り明曆田祿の後より

建長二年の秋
 性信坊爰想
 生の枯骨の不在と
 此松下は我過まきの
 枯骨ありは
 是と坊
 得ととへと
 獵人云く
 我業と
 みされ
 明日の糧
 ぬく
 信は
 信は



持とこの
 管前とと
 石上は投すれ
 其前とのれと
 發一鹿を射
 師則是とあり
 獵人發ひく其
 のとを惜り
 松下を空から既
 枯骨を得られ
 信坊歡喜踊躍
 竟其地を拜
 の精全と管
 号は法得寺
 とあり



大雄山海禪寺 同所新堀の小川を藪に西の方よりありぬ寺流の禪宗

よして江戸四箇寺の一あり往古平親王将門總別相馬郡よりあり草創

する所の佛刹ありされと相門亡るの後年を歴て荒廢よとよひされり

鬼の栖とまりを慶長の頃覺印和尚再興して寺を江府陽島の比小

移せり其頃 神祖和尚の道徳を尊し一尊ありあせられしより後の寺院も輪奐と

して宗流殊に盛なり 明暦回祿の後今の

清水寺觀世音菩薩 海禪寺の向ふ新堀端より昔の淺草橋の内より

ありり明暦火後今の比よりありる寺を江比山清水寺と号し天長年中

慈覺大師ひとりの勝地を求め天台法流の一院を建立ありてその

一の三禮ありて千々大悲の像を作り奉ると其昔の佛閣苑を

ありり魏々たりしより去年末に星雲相を歴りて堂塔大に破壊せ

しを文祿年間慶圓法印といふ沙門靈告汝得て叡山正覺坊の探題

豪威僧正と相謀て堂宇を修葺し昔より復りし

上宮太子堂 同所を丁より坤の方よりあり寺を用明山を徳寺と号す

浄土宗より本尊聖徳太子像の御自作ありといふ 世より孝養の御影と稱

天皇御悩の時を神明佛陀は祈誓言いたし至孝の誠を擡めより御悩事より 往古聖寶

平愈よりとんとん許實のなより自ら作りて御年十六歳の御影像ありといふ

上人念佛弘通の為此靈像を守り奉ると夏東より王母根澤より一の

精舎を建ちて 又ハ房は作り御体内 其後亨徳二年忠蓮社加譽上人良

祐和尚中興し台宇を改めて浄家とて慶長の頃馬喰町馬場の辺小

移され明暦の後今の比より引せたりあり寺門の内より比藏尊の石像あり

相品一澤本餐彈誓上人の作りて堂山十七世の住侶靈告よりんく土中を穿り地を

除厄を子堂 同所北の方浄土宗天竺山慈眼院より安を徳太子四十

二年の御時除厄の為自彫刻ありあり一靈像ありといふ 堂あり昔の神田

明暦回祿の時を考へ依住僧徳譽上人深く是を悲を竟し靈告を

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔り西南の方よりあり曹洞流の禪宗

よして良山存久和尚宛山たり往古に戸澤の辺祝言村とつるありて天
文二十年の頃右内道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此地は遷り

日蓮大菩薩 同所新寺町より半丁より西南の方より安立山長遠寺

小安置す侍云往古花洛南禅寺の普門禅師少年月天子と信致し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜と依て自業ととく親是を摸

奉て靈告より弘長元年辛酉六月遙く東より豆別伊

東小より同六日蓮上人と謁し彼二尊の慈眼を乞求む則しく龍眼

供糧ありて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自少像を造りて禅師のものと贈らる 禅師帰寂の後京

師要法寺より又妙榮寺より安置せり故ありて文禄三年の

頃安寺より遷り

神岡山幡随意院 新知恩寺と号す浄家十八檀林の一室より奉
尊阿弥陀如来の安所弥の作り

妙龍水 本堂の左より傍に碑
碣を建てる其文中小元

山幡随意上人天正十年の秋越後國高田の善導寺に在りて七日の間に
龍女ありて上人の力をまじりて浄土の勝地を受く畜胎を解脱し成佛
なり

宛山演蓮社智叟言上人 幡随意白導と号す相州藤澤郷善
行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十九日誕生る兒に

る時常に佛像を禮し妙門を教す九歳よりその頃出されん

ひとととも父母是を詩を既して十一歳竟小同國玉繩邑二傳寺の範
上人に投り落髪授戒し幡随意と号す爾来所と経歴し数回の手

序を経宗要の玄微を究む 天正年中上の館林の刺史藤原康政の請より
下徳圃冥宿より大庵寺を草創し又 一寺を創し後南山善導寺と号す十八檀林の一あり又
戦後高田より善導寺を完基せり 慶長七年壬寅 第六 洛陽知恩院より住職

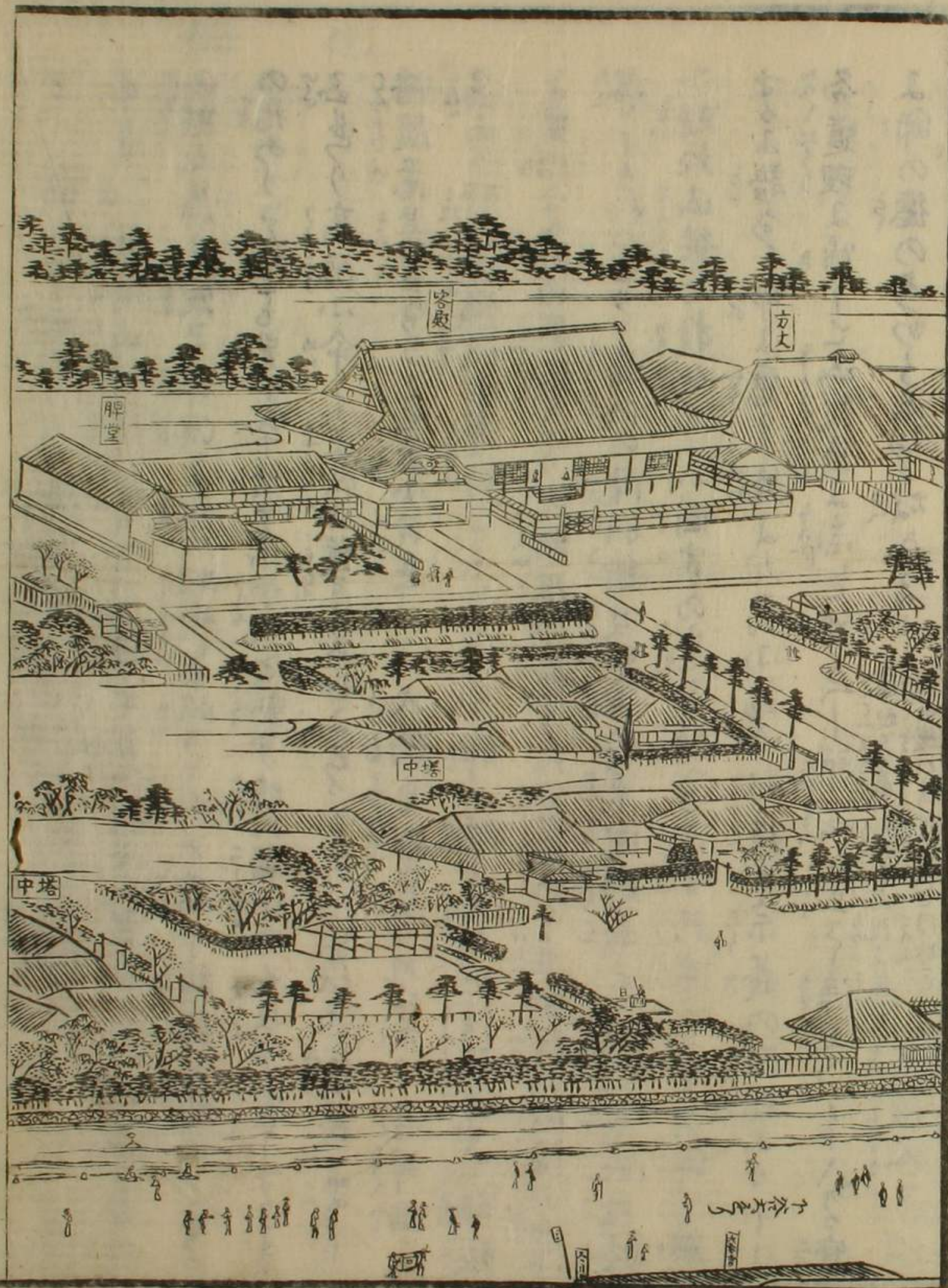
す此時紫服を賜り鳳闕より登り浄家の秘蹟を講じ主上大に獻感

あり同九年甲辰東武の招より再び此地より向し神田の蓮臺小聖に

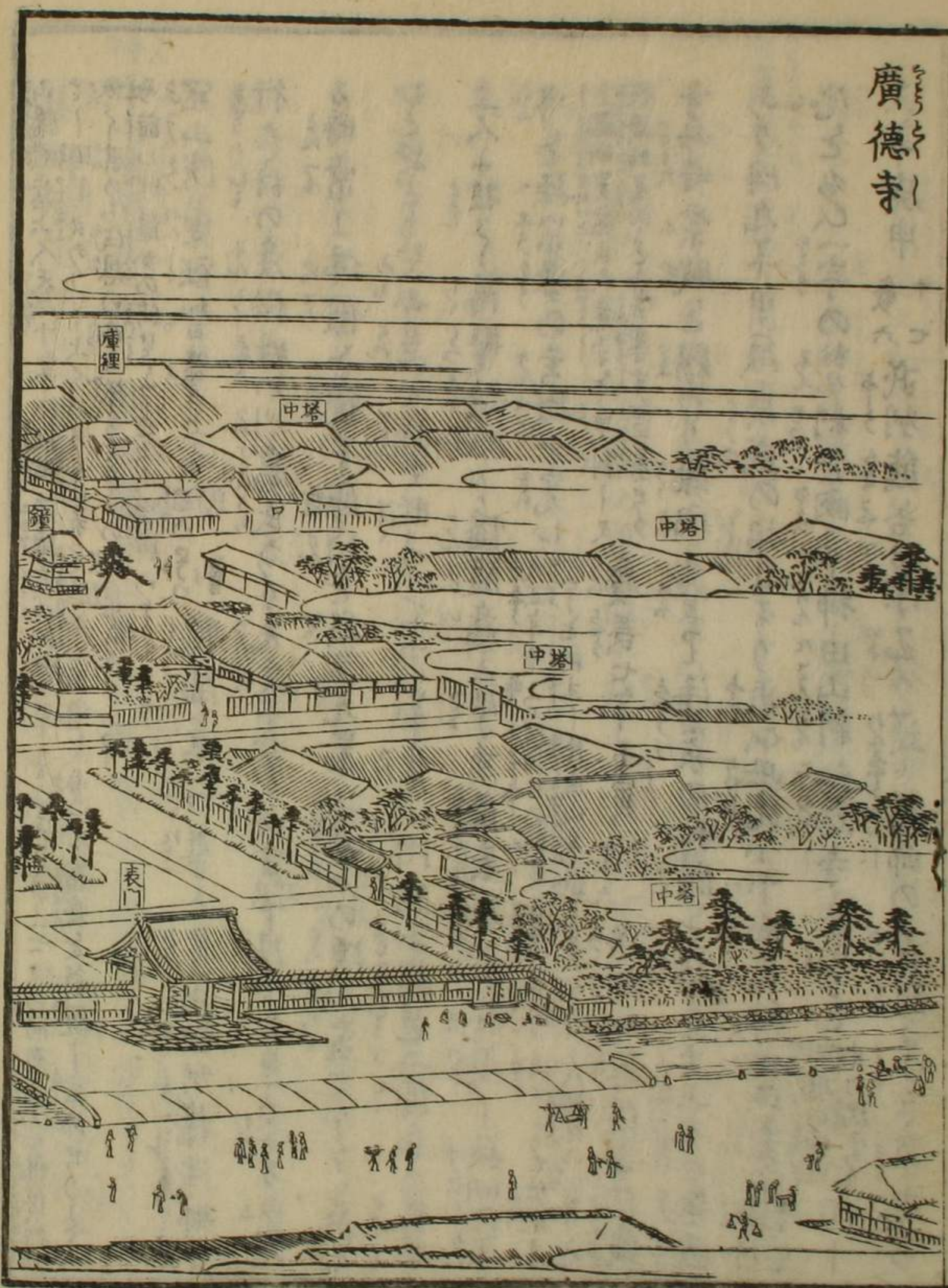
沈をぬい一宇の林刹を闕し神田山新知恩寺と号す

三年庚申 歳六 武別能谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

十



廣德寺



そを轉々精舎と一姓舎寺と号す
辛亥七十一勢別山田小入門寺を完基を姓小同十八年癸巳七十二蠻夷の
凶賊九刀小發邪法を弘め幻術を以て人を惑へ頗爾を傾んとする
の兆ありされとも是と平治す小千支を動す時の國中の人民を塵小する
至はり高僧小命一正法を導くは小をひく衆義一交り
幡隨意其器ありとて直小召す
大樹自命せられて云く吾軍四
患ある時の必佛法の護持よりとり師の既天下の法將うと邪徒
を退治すはの英雄あり又邪徒小對する軍將の干支を揮ひ敵陳し向小
等一われのとく蜀江の陳羽織及び金の軍配團扇とを賜ひ急は彼地
小赴は凶徒を教化せしめ國家の患を除へるの肯釣命ありし師も辭
するは語あり命は應終九刀小あり邪徒と宗義の對論ありし
各道理を歸して凶徒並志をひくは邪法を出し淨士門に入る實
は師の徳のちりちりなるへ
其後又

軍配團扇の幡隨意院に藏すとのちち
陣羽織の法探是を侍せり

令命よりりゆと梵宇を創立し觀音寺と号す
後崎陽小あり大音寺を辭は竟も晩年よを以紀別和乎山に於て萬
松寺を建立し住せられ一日微疾を命と上足意天和尚條川雲巖
二世ありてより師の病床を訪ふ師大に喜ひ傳燈の法まらるへとて未だ
傳法あり且諸弟を教誡し遂は親床に坐し筆を求め辭世の偈を書
して云く白道運歩教十年以火消火難思術と書畢て筆を擲端坐
合掌して高聲に弥陀のその号を唱へ眠り如くして化して眠小え
和元年乙卯正月十五日歳七十四以上行化傳の要を摘
信別善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺とては台宗の寺あり有むの
葦是とて寺内は赤津明神を鎮せり
朝日山永昌寺 願成院と号して下管大通あり淨土宗とて鎮蓮社尊譽上人
を并祖とて奉る阿彌陀如来の運慶の作なり觀音の慈惠大師の作とて
世に除厄の寺傳は云々當寺の天正年間下管長者其其名今草創とて同所長者



下り稲荷神明社



町とつるよありとえわの頂今の比より引つりて明暦二年丙申松浦家の

母儀永昌院再興ありとあり

則境内より長者の墳墓あり

圓満山廣徳寺

因所より大徳寺流の禪宗より始相り小田原

ありと天正十九年江戸より遷され神田より比と場

其後寛永の未今の比より遷る

山と希叟宗平禪師とあり

廣徳寺の徳門の名直の美里あり是近風火の難ありと云ふとも恙あり最昔の規

下谷稻荷社

廣徳寺の向側よりあり故に俗に廣徳寺の稻荷と称す

是大なる説あり別名を正法院といふ祭神は蒼稻魂命より奉祀十一

面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありとと中の鳥井小正一は稻荷大

明神と書る額あり崇保院公寛法親王の真蹟あり拜殿は揚

同神号の額蓮花光院道恕の筆ありと由社祭れは寛永三月

